

Office 10 パッケージ版 バージョンアップ

バージョン 10.3

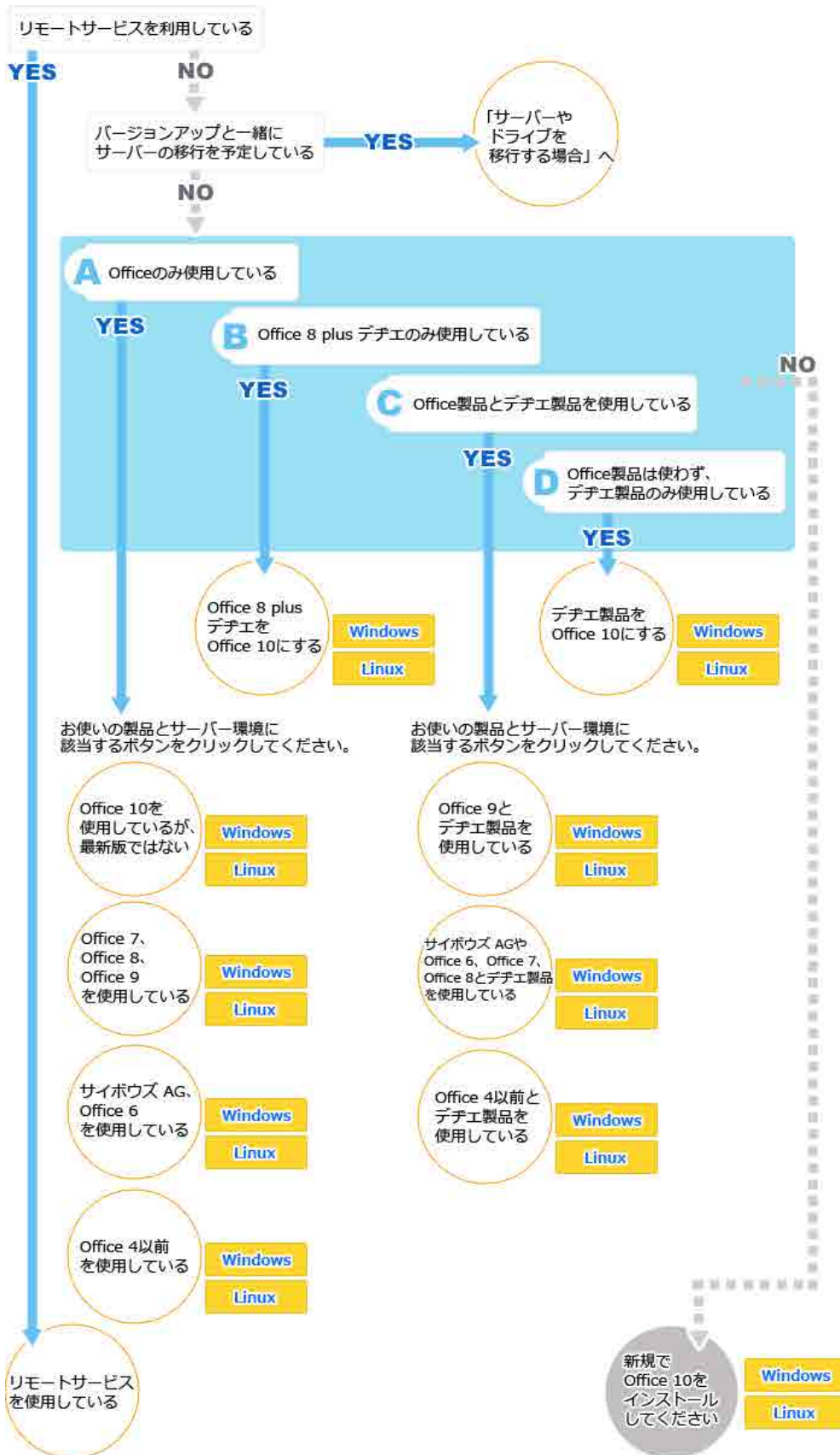
バージョンアップ

お使いの Office 製品またはデジエ製品を、Office 10 にバージョンアップする手順を説明します。

現在お使いの製品によって、バージョンアップの手順が異なります。

次のチャート図を使用すると、該当する手順のページに進めます。

■ バージョンアップのパターンの確認



Windowsの場合

Windows環境で運用している製品をOffice 10にバージョンアップする作業の流れを説明します。

Step1

バージョンアップするための準備が整っていることを確認します。

📄 [バージョンアップの前に確認すること](#)

Step2

次のページのチャート図を利用して、お使いの製品に合ったバージョンアップ方法を確認し、Office 10にバージョンアップします。

📄 バージョンアップ: [バージョンアップの 패턴の確認](#)

バージョンアップの前に確認すること

バージョンアップ作業の前に確認する項目について説明します。

動作環境やサーバーマシンの設定

Office 10にバージョンアップする前に、次の項目を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	バージョンアップする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 ローカルのAdministrator権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト: 動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスが終了していることを確認します。 セキュリティやバックアップなどの常駐アプリケーションやプロセスが動いていると、影響を受けてしまう可能性があるため、停止した状態で実施することを推奨しています。
お使いの環境にあったバージョンアップ方法	お使いの製品や利用環境によって、バージョンアップの手順は異なります。次のチャートを参照し、お使いの環境にあったバージョンアップ手順を参照してください。 バージョンアップの 패턴の確認

バックアップデータの保存場所

Office 10にバージョンアップすると、バックアップが必要なファイルが、次のいずれかのフォルダに自動的にバックアップされます。

- （インストールディレクトリ）¥odbxbackup[バージョンアップ日時]
- （インストールディレクトリ）¥odbbackup[バージョンアップ日時]

ただし、万が一のトラブルに備え、バージョンアップ前のデータを手動でバックアップすることを推奨します。

[バックアップ](#)

バージョンアップすると、既存のテンプレートファイルは、次のフォルダに自動的にバックアップされます。

（インストールディレクトリ）¥cb5¥page¥backup

ドライブの空き容量

バージョンアップするドライブのディスク容量が基準に満たない場合、バージョンアップができません。

バージョンアップの前にドライブの空き容量が十分であるかどうかを確認してください。

バージョンアップに必要な容量は、次のとおりです。

バージョンアップ前の製品		
Office製品単体	Office 9以降	100MB + Officeのdataディレクトリ
	Office 8以前	100MB + Officeのdataディレクトリの半分の容量
デジエ製品単体		100MB + (デジエのdataディレクトリ + デジエのfileディレクトリ) + デジエのdataディレクトリの半分の容量
Office製品とデジエ製品		100MB + (デジエのdataディレクトリ + デジエのfileディレクトリ) + デジエのdataディレクトリの半分の容量 +
Office 8 plus デジエ		Officeのdata ディレクトリの半分の容量

引き継がれるデータについて

バージョンアップする前に登録済みのデータは、バージョンアップ後のOffice 10にすべて引き継がれます。

ただし、Office 9以前からOffice 10にバージョンアップする際は、デザインの種類によって、バージョンアップ前にユーザーが適用していたデザインが引き継がれない場合があります。

この場合、初期値の「青（標準）」デザインが自動的に適用されます。

必要に応じて、適用するデザインを選択しなおすことをユーザーに連絡してください。

バージョンアップ時の注意点

最新版にバージョンアップすると、元のバージョンには戻せません。

Office 9以前からOffice 10にバージョンアップする際は、次のページで注意事項を確認してください。

 製品サイト: [バージョンアップに関する注意事項](#)

Office 10のライセンスキーの準備

次のどちらかの製品からOffice 10にバージョンアップする場合は、Office 10のライセンスキーが必要です。

- デヂエ製品
- Office 9以前のOffice製品

ライセンスキーは、バージョンアップライセンスの発注、または、無償バージョンアップの申し込みをすると取得できます。

ライセンスキー発行は時間が掛かる場合があります。

バージョンアップの作業をする前に、お客様の利用状況に合わせて、必要な申し込みをしてください。

詳細は次のページを参照してください。

 製品サイト: [旧バージョンを利用中の方](#)

 よくあるご質問: [サービスライセンス契約中ですが、無償バージョンアップは申し込みが必要ですか？](#)

お使いのOffice 10を最新版にする

お使いのOffice 10を最新版にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境:Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子:cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

バージョンアップの前に確認すること

2. お使いのOffice 10で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ
- データディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄、「Dir」欄、および「UserDir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:¥inetpub¥wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメントルート
UserDir	C:¥cybozu¥office¥cbag¥ データディレクトリ	サーバーマシン上でのデータディレクトリの絶対パス
Dir	C:¥inetpub¥scripts¥cbag¥ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス

「実行環境の診断」画面の詳細は、次のページを確認してください。

バージョン	マニュアル	表記例
Office 10	 サーバー環境の確認	WebサーバーにIISを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGI ディレクトリ C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ C:\inetpub\wwwroot ● データディレクトリ C:\cybozu\office\cbag

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順12で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

スケジューリングサービスの停止

4. Office 10にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice 10にアクセスしていない状態で行う必要があります。
「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice 10にアクセスできなくなります。

メンテナンス時間の設定

5. バージョンアップ前のOffice 10のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ

Office 10	● (データディレクトリ)/cb5/data ● (データディレクトリ)/cb5/file ● (データディレクトリ)/cb5/log ● (データディレクトリ)/cb5/module
-----------	---

6. 最新のインストーラーを入手します

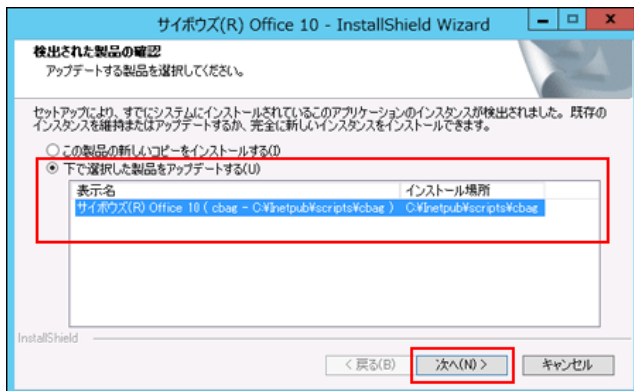
製品サイト: [ダウンロード](#)

7. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

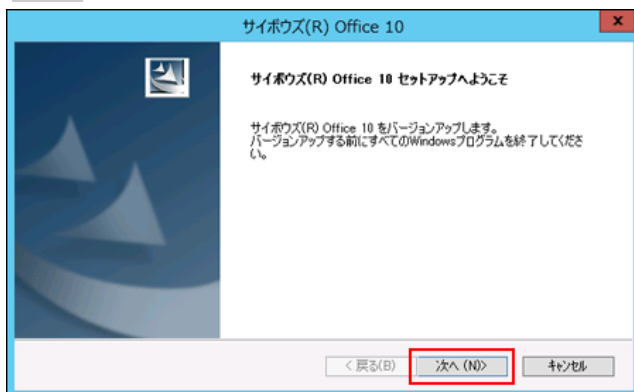
次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

8. 「下で選択した製品をアップデートする」を選択し、バージョンアップする製品を選択して、**次へ** をクリックします。

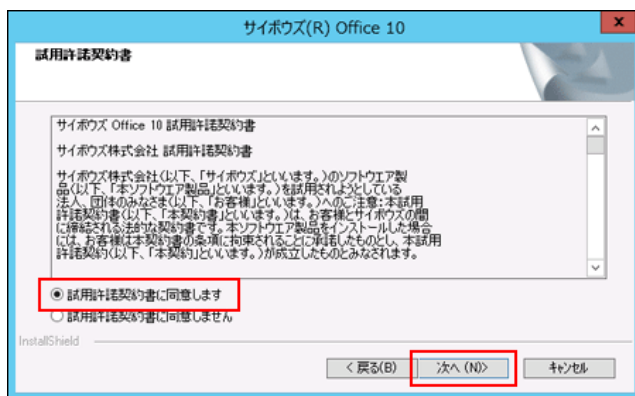


9. **次へ** をクリックします。

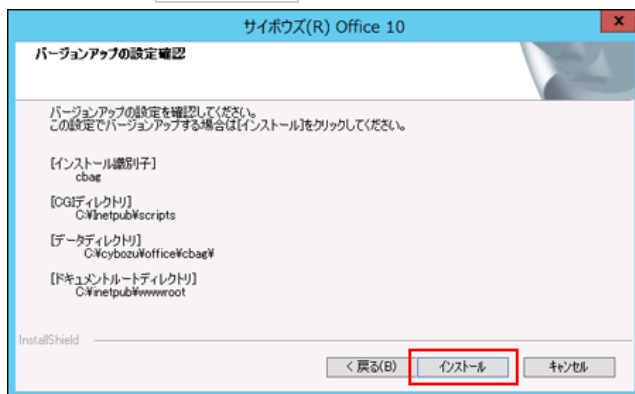


10. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、**次へ** をクリックします。

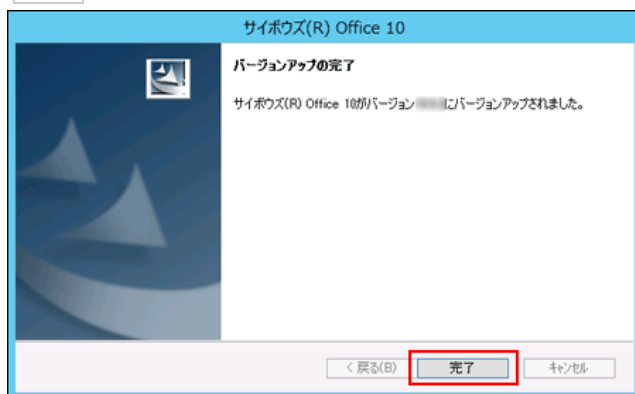
- 試用許諾契約書に同意しない場合:
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合:
戻る をクリックします。



11. 設定を確認し、インストールをクリックします。



12. 完了をクリックします。



バージョンアップ後の作業に進みます。

13. メンテナンス時間を解除します。

(データディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

14. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? - ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIP アドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? - ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

15. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

16. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

Office 7～Office 9をOffice 10にする

Office 7、Office 8、またはOffice 9 をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境:Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子:cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。
 [バージョンアップの前に確認すること](#)
2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

 バージョンアップの前に確認すること

- インストール識別子
- CGI ディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag% CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
Office 7	 「Office 7」の実行環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGIディレクトリ: C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ: C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ: C:\inetpub\wwwroot
Office 8	 「Office 8」の実行環境を確認する	
Office 9	 製品の実行環境を確認する	

- スケジューリングサービスを停止します。
手順14で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。
[☐ スケジューリングサービスの停止](#)
- サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。

手順14で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

📅 スケジューリングサービスの停止



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 7	 メンテナンス時間を設定する
Office 8	 メンテナンス時間を設定する
Office 9	 メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。
必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
Office 7	● (インストールディレクトリ)/cb5/data
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log
	● (インストールディレクトリ)/cb5/data

Office 9	● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log ● (インストールディレクトリ)/cb5/module
----------	--

6. 最新のインストーラーを入手します。

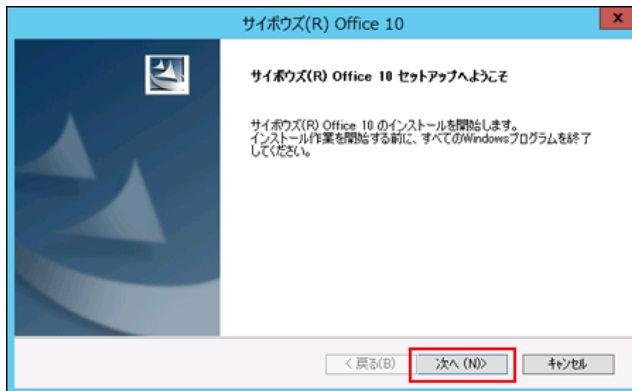
製品サイト:[ダウンロード](#)

7. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。

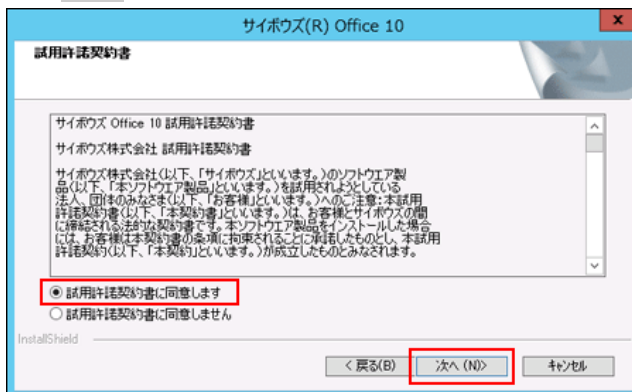
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

8. をクリックします。

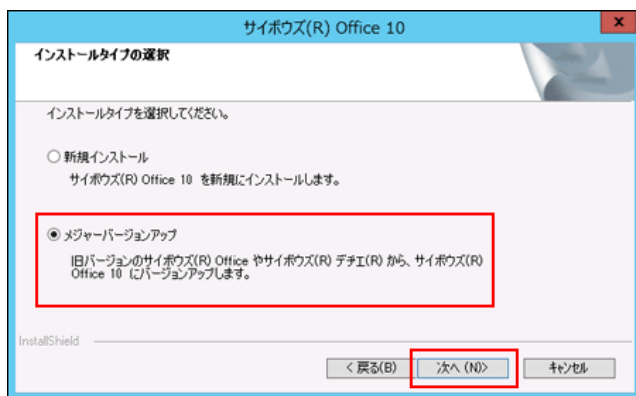


9. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、 をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合:
 をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合:
 をクリックします。

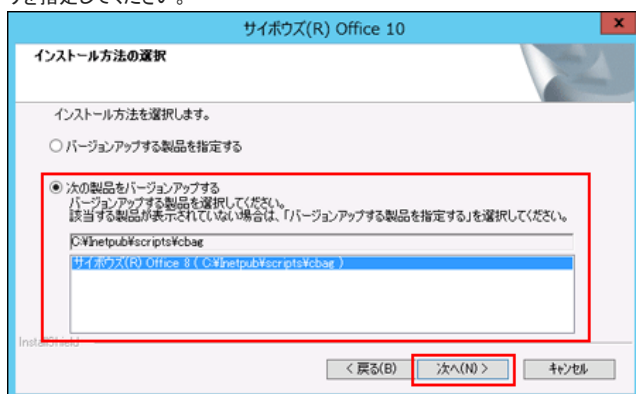


10. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、 をクリックします。



11. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、次へ をクリックします。

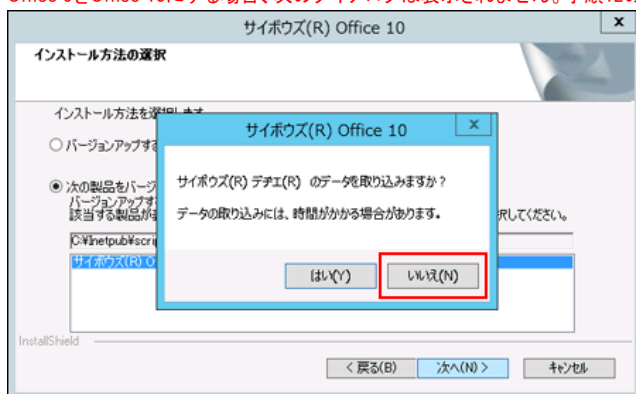
該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。



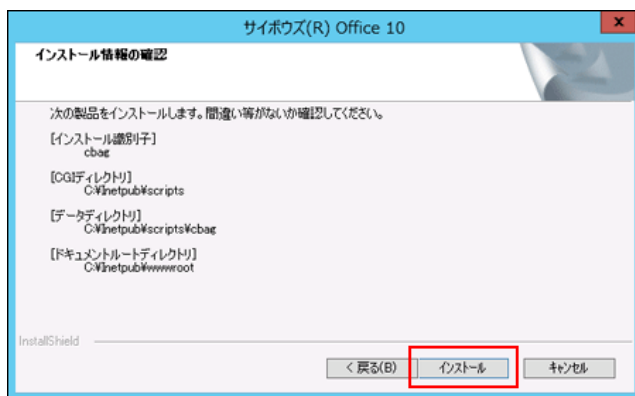
- Office 9をOffice 10にする場合：
手順13に進みます。
- Office 7またはOffice 8をOffice 10にする場合：
手順12に進みます。

12. 「デチエのデータ取り込み」確認ダイアログで、いいえ をクリックします。

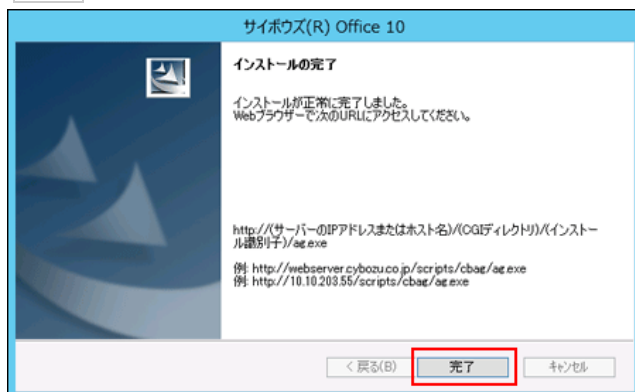
Office 9をOffice 10にする場合、次のダイアログは表示されません。手順12の操作は不要です。



13. 設定を確認し、インストール をクリックします。



14. **完了** をクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

15. メンテナンス時間を解除します。

メンテナンス時間内の場合、エラーが表示されます。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

16. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

17. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

18. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を続けると、操作画面にメッセージが表示されます。

メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[Office 10のライセンスキーの準備](#)

19. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする

サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Windows環境: Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子: cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\% CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
サイボウズ AG	サイボウズ AGの実行環境の診断	WebサーバーにIISを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGIディレクトリ: C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ: C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ: C:\inetpub\wwwroot
Office 6	サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	

3. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
サイボウズ AG	メンテナンス時間の設定
Office 6	メンテナンス時間の設定

4. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

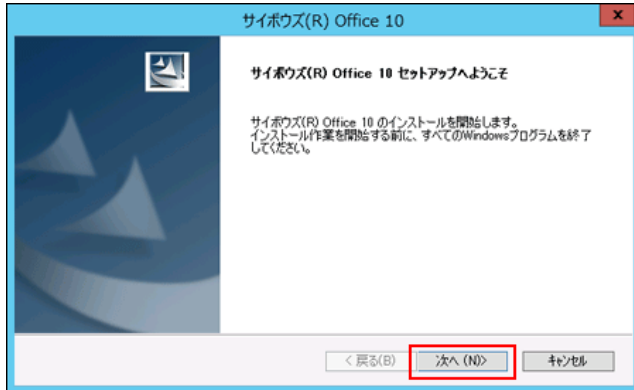
製品	バックアップの対象となるデータ
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log

5. 最新のインストーラーを入手します。

[製品サイト: ダウンロード](#)

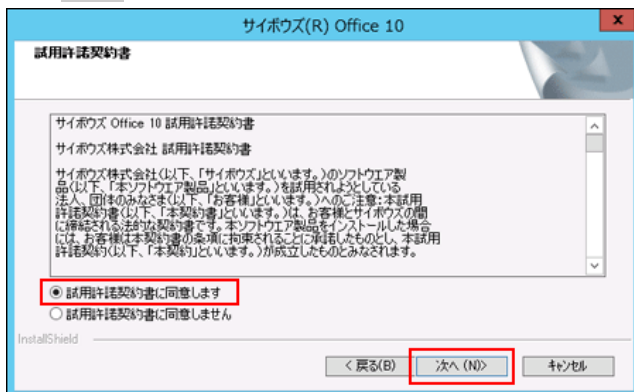
6. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。
- 次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。
- Windows Server 2008
 - Windows Server 2012
 - Windows Vista
 - Windows 7
 - Windows 8

7. **次へ** をクリックします。

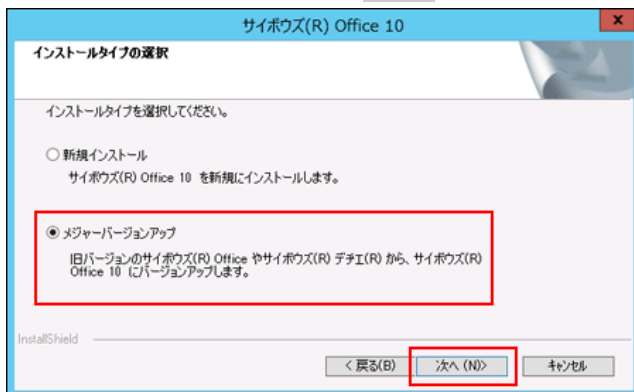


8. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、**次へ** をクリックします。

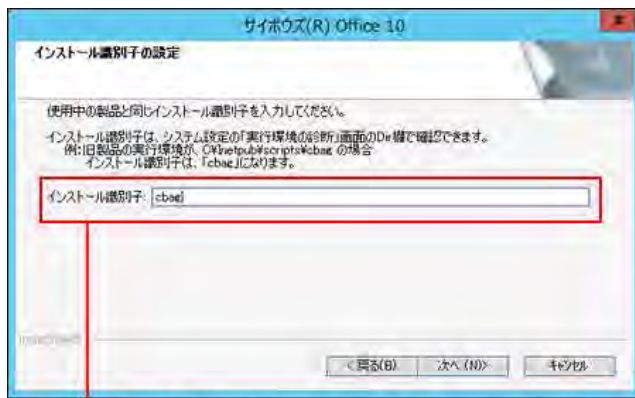
- 試用許諾契約書に同意しない場合：
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
戻る をクリックします。



9. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、**次へ** をクリックします。



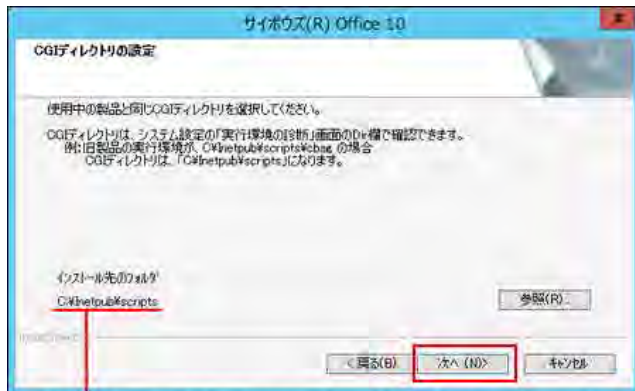
10. インストール識別子を確認し、**次へ** をクリックします。
- 手順2で確認したインストール識別子と同じであることを確認します。



バージョンアップ前の製品と同じインストール識別子であることを確認します。

11. CGIディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

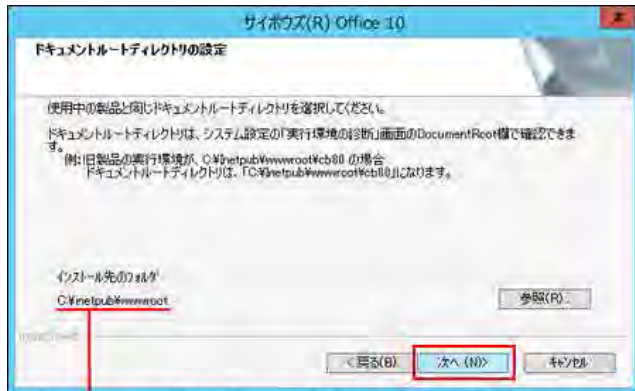
手順2で確認したCGIディレクトリと同じであることを確認します。



バージョンアップ前の製品と同じCGIディレクトリであることを確認します。

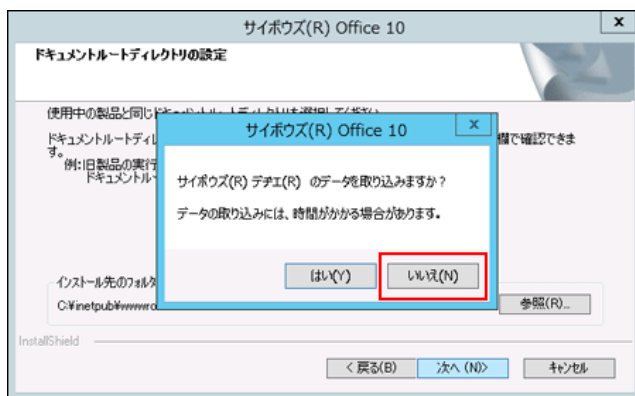
12. ドキュメントルートディレクトリを確認し、**次へ** をクリックします。

手順2で確認したドキュメントルートディレクトリと同じであることを確認します。

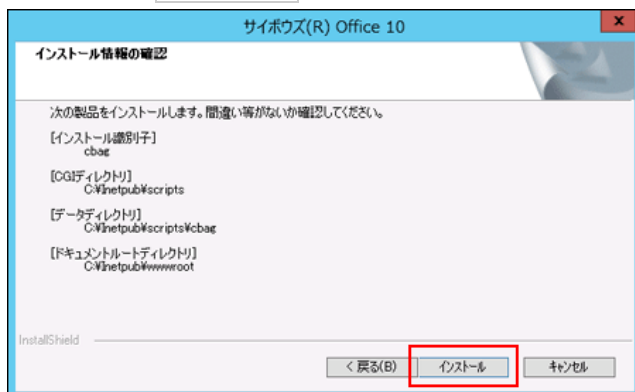


バージョンアップ前の製品と同じドキュメントルートディレクトリであることを確認します。

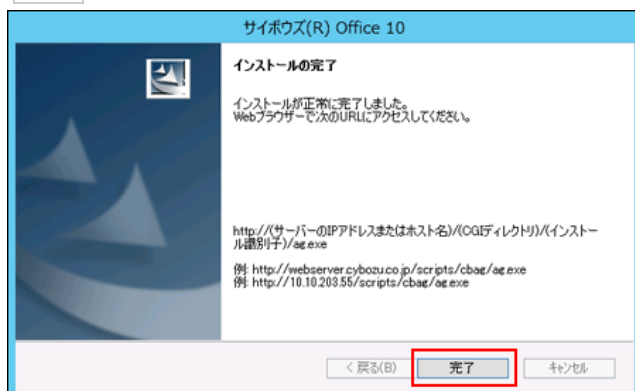
13. 「デヂエのデータ取り込み」確認ダイアログで、**いいえ** をクリックします。



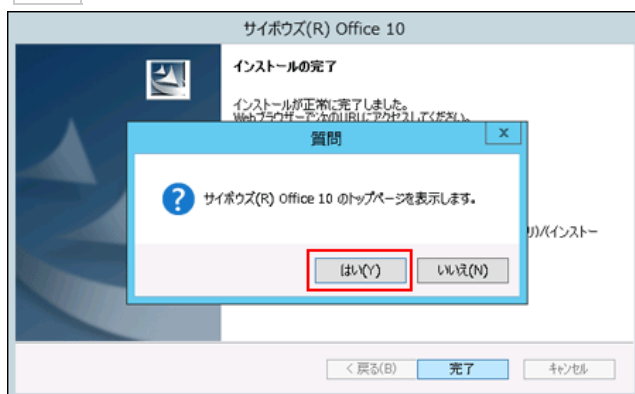
14. 設定を確認し、インストールをクリックします。



15. 完了をクリックします。



16. はいをクリックします。



README.txtが表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。
バージョンアップ後の作業に進みます。

17. メンテナンス時間を解除します。
メンテナンス時間内の場合、エラーが表示されます。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[☐ メンテナンス時間の解除](#)

18. Webブラウザを起動し、サイボウズ Officeにアクセスします。

サイボウズ Officeのログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

19. サイボウズ Officeにログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

20. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。

メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[☐ 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[☐ Office 10のライセンスキーの準備](#)

[☐ ライセンスの登録](#)

21. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[☐ 「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

Office 4以前をOffice 10にする

Office 4以前の製品をOffice 10にバージョンアップするには、お使いの環境を一度Office 6にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

 [Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step2

Office 4以前の製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6: [サイボウズ Office 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step3

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

 [サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする](#)

Step4

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

デヂエ 5	メンテナンス時間の設定
デヂエ 6	メンテナンス時間の設定
デヂエ 8	メンテナンス時間を設定する

4. バージョンアップ前のデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
DBメーカー	
デヂエ 3	● (インストールディレクトリ)/data
デヂエ 4	● (インストールディレクトリ)/file
デヂエ 5	
デヂエ 6	
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

5. 最新のインストーラーを入手します。

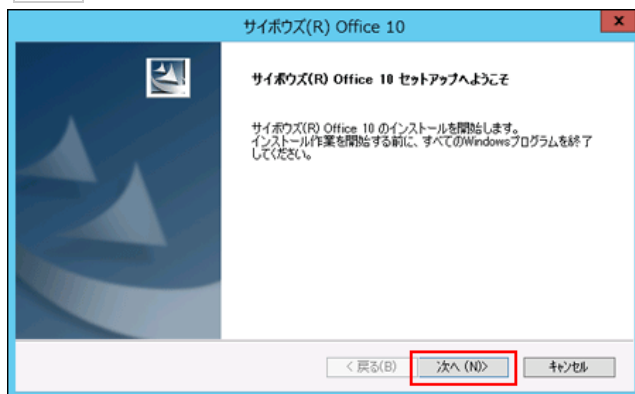
[製品サイト:ダウンロード](#)

6. サーバーマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバーOSをお使いの場合は、「cbof-10.0.0-windows-k0.exe」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

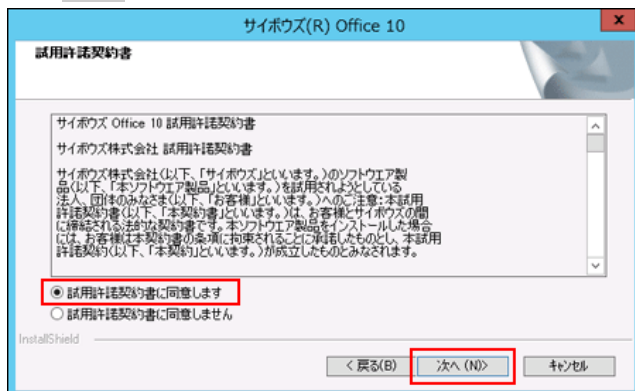
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

7. [次へ](#) をクリックします。

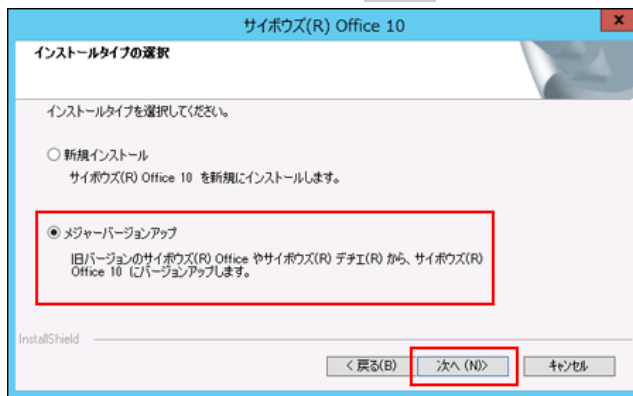


8. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、[次へ](#) をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合:
[キャンセル](#) をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合:
[戻る](#) をクリックします。

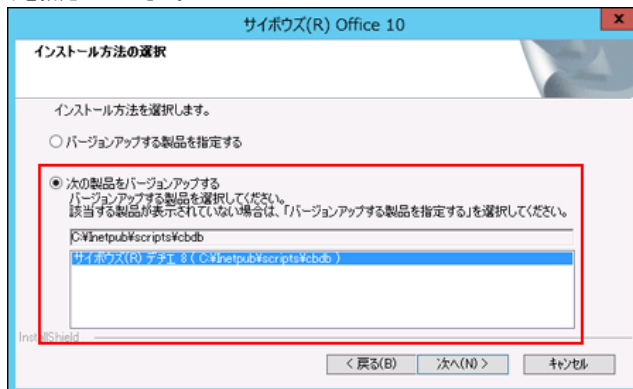


9. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、**次へ** をクリックします。

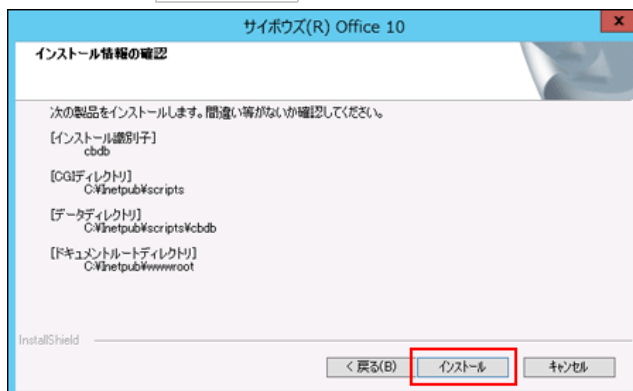


10. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、**次へ** をクリックします。

該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。

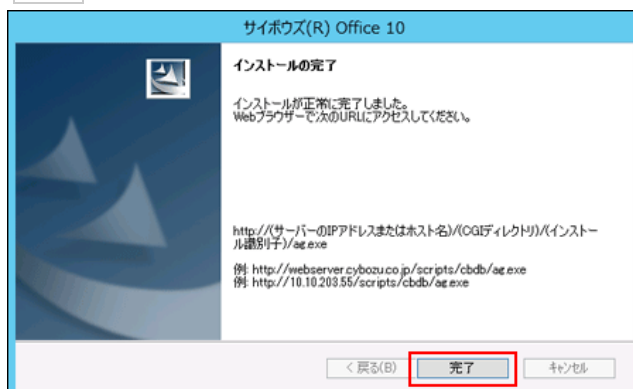


11. 設定を確認し、**インストール** をクリックします。



データコンパートのあと、バージョンアップが始まります。

12. **完了** をクリックします。



バージョンアップ後の作業に進みます。

13. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。
- バージョンアップ前のアクセスURLから、次の赤字部分が変わります。
- アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ ag.exe ?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbdb/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbdb/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ ag.exe ?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbdb/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbdb/ag.exe?

14. コンバート結果を確認し、**ホームへ** をクリックします。



ホームへ をクリックしたあと、Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

15. Office 10にログインし、動作を確認します。
- 次のことを確認します。
- 正常に動作する。
 - バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
 - ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

16. ライセンスを登録します。
- ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を続けると、操作画面にお知らせメッセージが表示されます。
- メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[❏ 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[❏ Office 10のライセンスキーの準備](#)

[❏ ライセンスの登録](#)

17. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「デジエ製品+リモートサービス」の場合](#)

Office 8 plus デヂエをOffice 10にする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- Office 8 plus デヂエからOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象:
 - Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.exe」がリンク切れになる。
 - カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法:
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

次の場合を例に説明します。

- Windows環境:Windows Server 2012 Standard
- インストール識別子:cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのOffice 8 plus デヂエで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office 8の「実行環境の診断」画面の例:

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\% CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGIディレクトリ: C:\inetpub\scripts ● インストールディレクトリ: C:\inetpub\scripts\cbag ● ドキュメントルートディレクトリ: C:\inetpub\wwwroot
デヂエ	システムの実行環境を確認する	

3. Office 8のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエではこの操作は不要です。

手順13で作業が完了すると、Officeのスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスの停止](#)

4. Office 8 plus デヂエにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- 最初に「plus デヂエ」にメンテナンス時間を設定してから、Office 8にメンテナンス時間を設定します。
- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。

「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデジエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 8	メンテナンス時間を設定する
デジエ 8	メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前の製品のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log
デジエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

6. 最新のインストーラーを入手します。

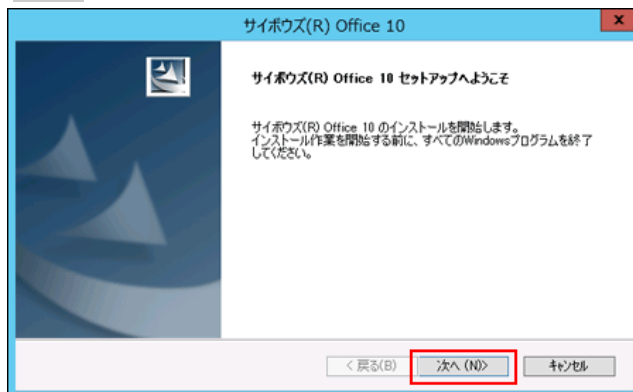
[製品サイト:ダウンロード](#)

7. サーバマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバOSをお使いの場合は、「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

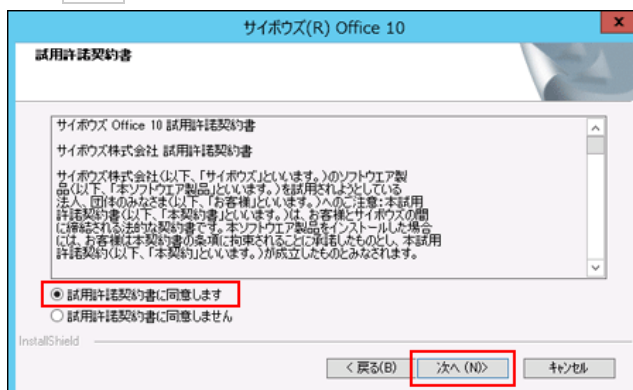
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

8. 次へ をクリックします。

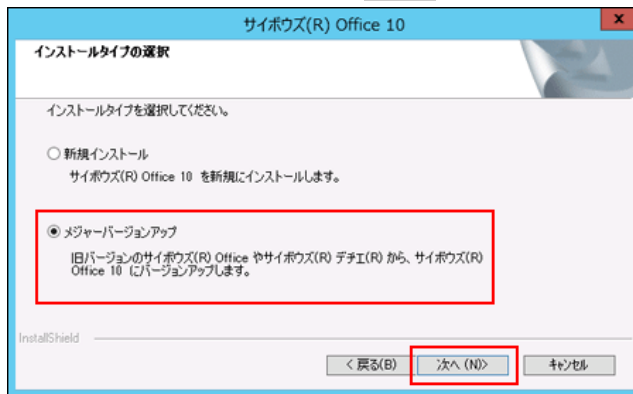


9. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、次へ をクリックします。

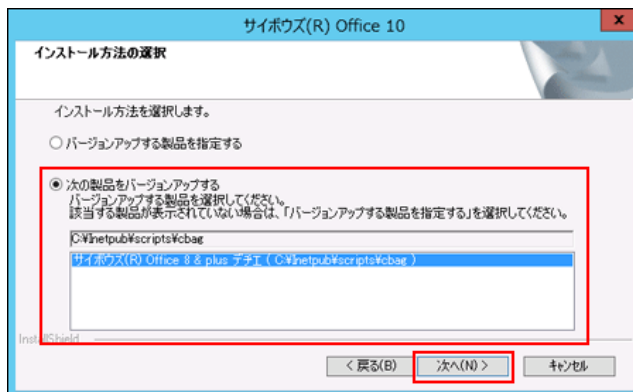
- 試用許諾契約書に同意しない場合:
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合:
戻る をクリックします。



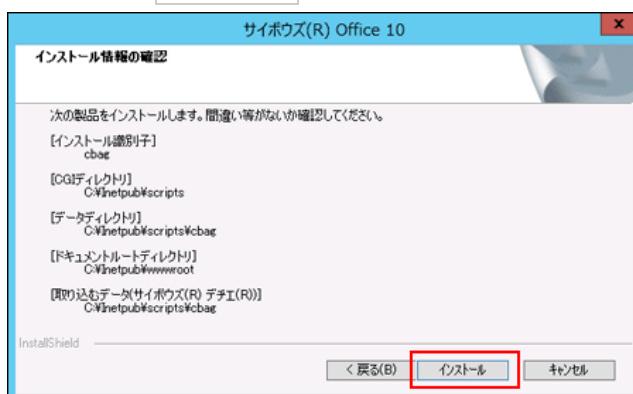
10. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、**次へ** をクリックします。



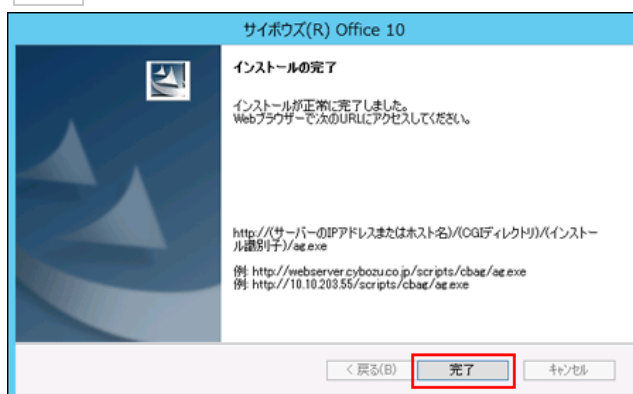
11. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、**次へ** をクリックします。



12. 設定を確認し、**インストール** をクリックします。



13. **完了** をクリックします。



バージョンアップ後の作業に進みます。

14. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[☐ メンテナンス時間の解除](#)

15. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

16. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#)をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックしたあと、Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

17. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

18. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のOffice 8側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[☐ システムメールアカウント/メール通知について](#)

19. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にお知らせメッセージが表示されます。

メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[☐ 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

 [Office 10のライセンスキーの準備](#)

 [ライセンスの登録](#)

20. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office 8 plus デヂエ+リモートサービス」の場合](#)

「デヂエ製品 + Office 9」をOffice 10にする

Office 9とデヂエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象:
 - ・ カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法:
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 9のみOffice 10にバージョンアップしてください。

ただし、Office 9だけをOffice 10にバージョンアップするだけでは、Office側にデヂエ製品のデータは取り込めません。

デヂエ製品のデータをOffice 10の「カスタムアプリ」に取り込む場合は、下記のStep6の操作を行ってください。

Step1

Office 9とデヂエ製品でユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

ユーザー情報連携は、デヂエ製品で確認できます。

[デヂエ 8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Step2

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step3

お使いのデヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[デヂエ 8: バージョンアップする](#)



- Office 9とデヂエ製品でユーザー情報連携を行っている場合:
必ずデヂエ製品を最新版にバージョンアップしてください。
デヂエ製品が古いバージョンのままOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携が設定できなくなります。

Step4

Office 9をOffice 10にバージョンアップします。

[Office 7～Office 9をOffice 10にする](#)

Step5

デヂエとOffice 10で動作確認をします。



- バージョンアップ前のOffice 9とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合:
バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
Office 10とユーザー情報を連携してください。

Step6

Office 10の「カスタムアプリ」にデヂエ製品のデータを取り込む場合は、次の操作を行います。

デヂエ製品の各ライブラリのデータをDBMファイルに書き出します。
Office 10で手順1のDBMファイルを読み込みます。

詳細は次のページを参照してください。

[よくあるご質問](#)

バージョンアップ後も、Office 10とデヂエ製品を併用する場合は、Step6の操作は不要です。Step7に進みます。

Step7

ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

 [試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、必ずOffice 10用のライセンスを登録してください。

Step2で準備したライセンスキーを登録する手順は、次のページを参照してください。

 [ライセンスの登録](#)

Step8

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office 9+デデエ製品+リモートサービス」の場合](#)

「デヂエ製品＋サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする

サイボウズ AGやOffice 6～Office 8とデヂエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ・ カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office製品のみOffice 10にバージョンアップしてください。

Office AG、Office 6、Office 7、Office 8 をOffice 10にすると、バージョンアップする過程で、デヂエ製品のデータは自動的にOffice 10に取り込まれます。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** で確認できます。

各製品のサーバーの確認

Office製品とデヂエ製品が、同じサーバー上で運用されているかどうかを確認します。

- 同じサーバー上で運用している場合：
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込んで、Office 10にバージョンアップできます。
引き続き、「ユーザー情報連携の確認」や「バージョンアップ前の準備」の説明を確認してください。
- 異なるサーバー上で運用している場合：
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込みません。
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デヂエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。
[デヂエ 8: サーバー／ドライブを移行する](#)

ユーザー情報連携の確認

バージョンアップの前に、お使いのOffice製品とデヂエ製品がユーザー情報連携しているかどうかを確認します。

デヂエのバージョン番号と、ユーザー情報連携の有無によって、注意する内容が異なります。

ユーザー情報連携は、デヂエ製品で確認できます。

[デヂエ 8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

■ ユーザー情報を連携していない場合

デヂエ製品のバージョンに関わらず、デヂエ製品のユーザー情報は、Office 10に引き継がれません。

Office 10にバージョンアップする前に、Office製品とデヂエ製品で、次の情報を同一にしてからバージョンアップすると、デヂエ製品のアクセス権などの設定を引き継げます。

- ユーザーのログイン名
- Office製品のグループ名(現:組織名)とデヂエ製品のグループ名

ユーザー情報を連携せずに、バージョンアップする場合は、次のページを確認してから操作してください。

[よくあるご質問](#)

■ ユーザー情報を連携している場合

ユーザー情報連携している、かつ、Office 10へバージョンアップした後も、デヂエ製品の利用を継続する場合の注意点は、次のとおりです。

バージョン	説明
古いデヂエ (バージョン 8.0.7以前)	デヂエが古いバージョンのまま、連携先のOffice 製品をOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携を引き継げません。 デヂエを最新版にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップしてください。
最新版のデヂエ (バージョン 8.1.0)	連携先の Office製品をOffice 10にバージョンアップした後も、ユーザー情報連携が引き継がれます。 ただし、連携先のOffice製品のインストールディレクトリのパスに全角が含まれていると、ユーザー情報を連携できません。 Office製品のインストールディレクトリを確認してから、Office 10にバージョンアップしてください。 サイボウズ AG: サイボウズ AGの実行環境の診断 Office 6: サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断 Office 7: 「Office 7」の実行環境を確認する Office 8: 「Office 8」の実行環境を確認する

バージョンアップする

次の場合を例に説明します。

- Windows環境:
Windows Server 2012 Standard
- Office製品:
 - バージョン: 8.1.6
 - インストール識別子: cbag
- デヂエ製品:
 - バージョン: 8.1.0
 - インストール識別子: cbdb

- バージョンアップする環境を確認します。
[バージョンアップの前に確認すること](#)
- お使いのOffice製品とデヂエ製品で次の情報を確認します。
 - インストール識別子
 - CGIディレクトリ
 - インストールディレクトリ
 - ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office製品の「実行環境の診断」画面の例:

DocumentRoot	C:\inetpub\wwwroot ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
Dir	C:\inetpub\scripts\cbag\ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

バージョン	マニュアル	表記例
デヂエ 8	システムの実行環境を確認する	WebサーバーにIISを利用している場合の例: - インストール識別子: - Officeの場合: cbag - デヂエの場合: cbdb - CGIディレクトリ: C:\inetpub\scripts - インストールディレクトリ: - Officeの場合: C:\inetpub\scripts\cbag - デヂエの場合: C:\inetpub\scripts\cbdb - ドキュメントルートディレクトリ: C:\inetpub\wwwroot
サイボウズ AG	サイボウズ AGの実行環境の診断	
Office 6	サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	

- Office製品のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエ製品ではこの操作は不要です。

お使いのOffice製品が、サイボウズ AGまたはOffice 6の場合も、この操作は不要です。手順4に進みます。

手順16で作業が完了すると、Office製品のスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[☐ スケジューリングサービスの停止](#)

4. Office製品とデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
デヂエ 8	☐ メンテナンス時間を設定する
サイボウズ AG	☐ メンテナンス時間の設定
Office 6	☐ メンテナンス時間の設定
Office 7	☐ メンテナンス時間を設定する
Office 8	☐ メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log
Office 7	
Office 8	

6. デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[☐ デヂエ 8: バージョンアップする](#)



- Office 10にバージョンアップした後もデヂエ製品を利用する場合のみ、デヂエ製品を最新版にバージョンアップする必要があります。

7. Office 10の最新のインストーラーを入手します。

[☐ 製品サイト: ダウンロード](#)

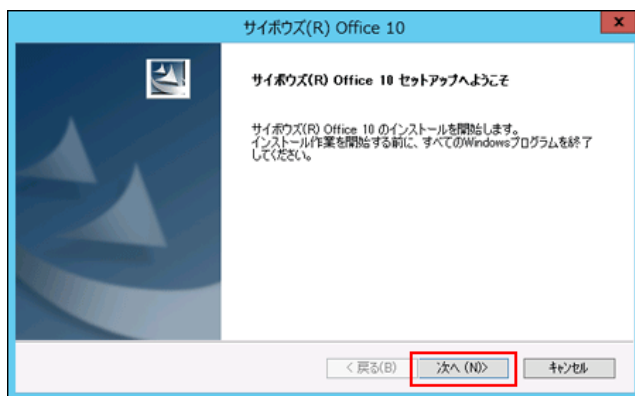
8. Office製品をOffice 10にバージョンアップします。

サーバーマシンにダウンロードした最新のインストーラー「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」をダブルクリックし、インストーラーを起動します。

次のサーバーOSをお使いの場合は、「cbof-10.O.O-windows-kO.exe」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

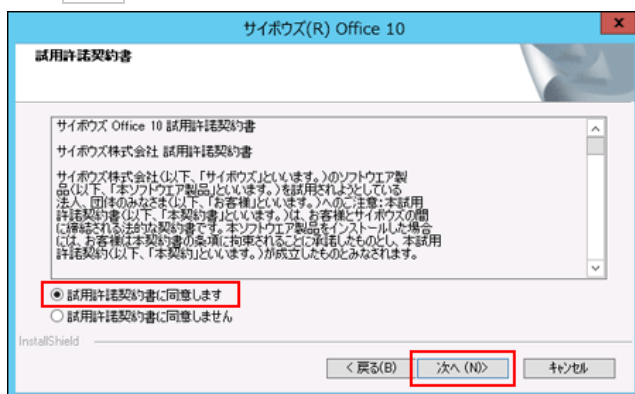
- Windows Server 2008
- Windows Server 2012
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

9. [次へ](#) をクリックします。

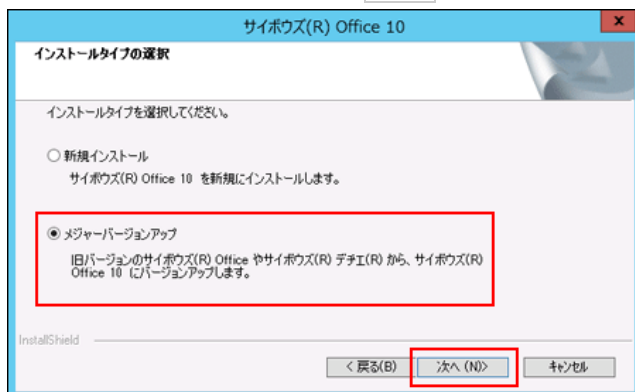


10. 試用許諾契約書を確認し、同意する場合は「試用許諾契約書に同意します」を選択し、次へ をクリックします。

- 試用許諾契約書に同意しない場合：
キャンセル をクリックし、インストールを中止します。
- 1つ前の手順に戻る場合：
戻る をクリックします。

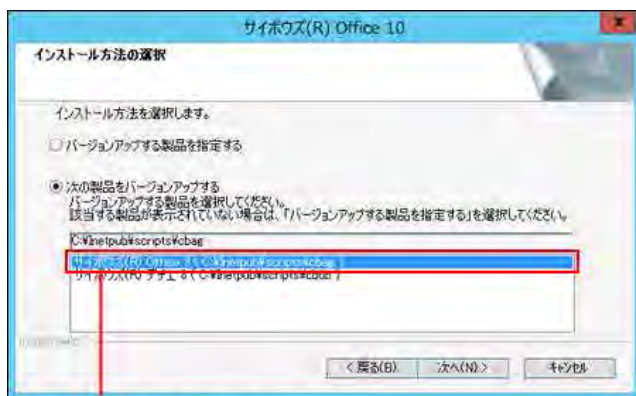


11. 「メジャーバージョンアップ」を選択し、次へ をクリックします。



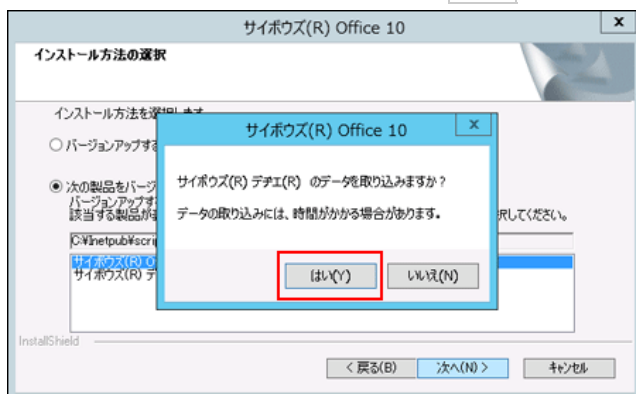
12. 「次の製品をバージョンアップする」を選択し、Office製品を選択してから、次へ をクリックします。

該当する製品が表示されない場合は、「バージョンアップする製品を指定する」を選択し、インストール識別子、CGIディレクトリ、ドキュメントルートディレクトリを指定してください。

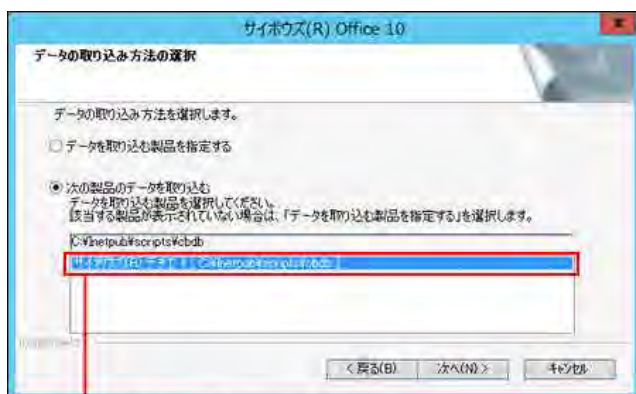


Office製品を選択します。

13. 「デヂエのデータ取り込み」確認ダイアログで、はい をクリックします。

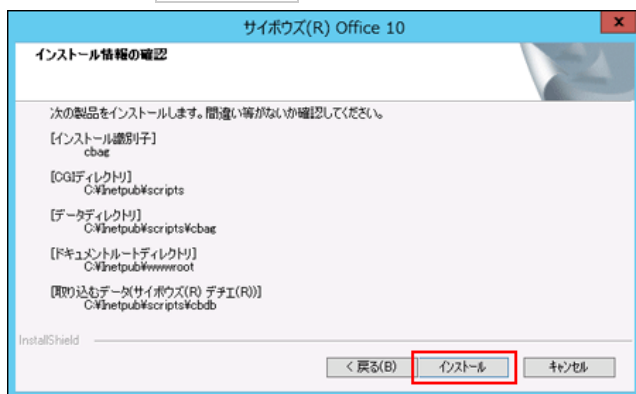


14. 「次の製品のデータを取り込む」を選択し、データを取り込むデヂエ製品を選択してから、次へ をクリックします。

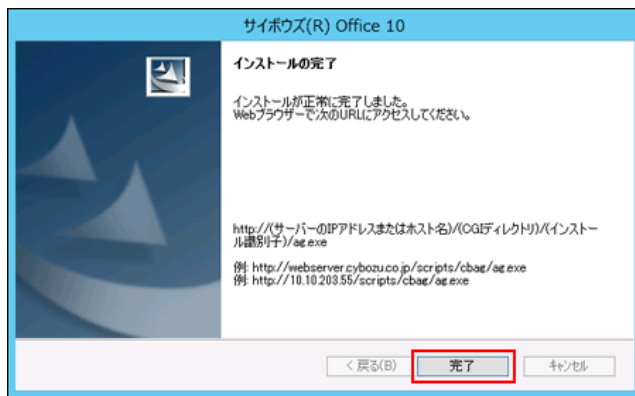


データを取り込むデヂエ製品を選択します。

15. 設定を確認し、インストール をクリックします。



16. 完了 をクリックします。



バージョンアップ後の作業に進みます。

17. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

18. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

アクセスURLの例：

Webサーバー	アクセスURL	例
IIS	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/scripts/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/scripts/cbag/ag.exe?
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.exe?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.exe? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.exe?

19. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#) をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックし、サイボウズ Office のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

20. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

21. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のサイボウズ Office側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[☞ システムメールアカウント/メール通知について](#)

22. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にお知らせメッセージが表示されます。

メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[☞ 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[☞ Office 10のライセンスキーの準備](#)

[☞ ライセンスの登録](#)



- バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合：
バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
バージョンアップした後も継続してデヂエ製品を使用する場合は、Office 10とユーザー情報を連携してください。

[☞ デヂエ8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

23. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[☞ 「Office 8以前+デヂエ製品+リモートサービス」の場合](#)

「デジエ製品 + Office 4以前」をOffice 10にする

Office 4以前のOffice製品とデジエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデジエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象:
 - ・ カスタムアプリ内で「db.exe?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法:
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 10にバージョンアップするには、一度Office 4以前のOffice製品をOffice 6にバージョンアップする必要があります。
デジエ製品のデータは、Office 6から再度バージョンアップする際に、自動的にOffice 10に取り込まれます。

次のステップで作業します。

Step1

Office 4以前のOffice製品とデジエ製品が、同じサーバー上で運用されていることを確認します。



- 異なるサーバーでOffice製品とデジエ製品を運用している場合、Step5でデジエ製品のデータをOffice側に取り込みません。
デジエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デジエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。

Step2

ユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

- 連携している場合:
Step3に進みます。
- 連携していない場合:
Office製品とデジエ製品の各ユーザーのログイン名とグループ名を一致させてください。



- ユーザー情報を連携していない場合、ユーザーのログイン名とグループ名をOffice製品と一致させないままバージョンアップすると、デジエ製品のユーザー情報が引き継がれず、アクセス権の設定などが無効になります。

Step3

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step4

デジエ製品を、最新版にバージョンアップします。

[デジエ 8: バージョンアップする](#)



- 次のすべての条件に該当する場合のみ、Step4を行います。条件に該当しない場合は、Step5に進みます。
 - Office製品とデジエ製品でユーザー情報を連携している
 - Office 10へのバージョンアップ後も「デジエ」を引き続き利用する

Step5

Office 4以前のOffice製品を、Office 6にバージョンアップします。

[Office 6: サイボウズOffice 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step6

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

- バージョンアップ中にデヂエ製品のデータをOffice側に取り込むかどうかを選択してください。
- Step4を行った場合は、デヂエ製品にアクセスし、連携先の製品をOffice 10に変更してください。

 [「デヂエ製品+サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする](#)

Step7

ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

 [試用期間の終了日が近づく](#)

Office 10の環境では、必ずOffice 10用のライセンスを登録してください。

Step3で準備したライセンスキーを登録する手順は、次のページを参照してください。

 [ライセンスの登録](#)

Step8

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office 8以前+デヂエ製品+リモートサービス」の場合](#)

Linuxの場合

Linux環境で運用している製品をOffice 10にバージョンアップする作業の流れを説明します。

Step1

バージョンアップするための準備が整っていることを確認します。

📄 [バージョンアップの前に確認すること](#)

Step2

次のページのチャート図を利用して、お使いの製品に合ったバージョンアップ方法を確認し、Office 10にバージョンアップします。

📄 バージョンアップ: [バージョンアップのパターンの確認](#)

バージョンアップの前に確認すること

バージョンアップ作業の前に確認する項目について説明します。

動作環境やサーバーマシンの設定

Office 10Iにバージョンアップする前に、次の項目を確認します。

項目	説明
ユーザーの権限	バージョンアップする際に、次のユーザーでサーバーマシンにログインする必要があります。 ● root権限を持つユーザー
サーバーマシンやネットワークの環境	お使いのサーバーマシンやネットワーク環境が動作環境と合っていることを確認します。 製品サイト: 動作環境
サーバーマシンの設定日時	サーバーマシンの設定日時が、正しいかどうかを確認します。 日時が正しく設定されていないと、正常に動作しない恐れがあります。
常駐アプリケーションやプロセス	サーバーマシンで、アプリケーションのプロセスが終了していることを確認します。 セキュリティやバックアップなどの常駐アプリケーションやプロセスが動いていると、影響を受けてしまう可能性があるため、停止した状態で実施することを推奨しています。
お使いの環境にあったバージョンアップ方法	お使いの製品や利用環境によって、バージョンアップの手順は異なります。次のチャートを参照し、お使いの環境にあったバージョンアップ手順を参照してください。 バージョンアップのパターンの確認

バックアップデータの保存場所

Office 10Iにバージョンアップすると、バックアップが必要なファイルが、次のいずれかのフォルダに自動的にバックアップされます。

- (インストールディレクトリ)\%odbxbackup\[バージョンアップ日時]
- (インストールディレクトリ)\%odbbbackup\[バージョンアップ日時]

ただし、万が一のトラブルに備え、バージョンアップ前のデータを手動でバックアップすることを推奨します。

[バックアップ](#)

バージョンアップすると、既存のテンプレートファイルは、次のフォルダに自動的にバックアップされます。

(インストールディレクトリ)\%cb5\$page%backup

ドライブの空き容量

バージョンアップするドライブのディスク容量が基準に満たない場合、バージョンアップができません。

バージョンアップの前にドライブの空き容量が十分であることを確認してください。

バージョンアップに必要な容量は、次のとおりです。

バージョンアップ前の製品		
Office製品単体	Office 9以降	100MB + Officeのdataディレクトリ
	Office 8以前	100MB + Officeのdataディレクトリの半分の容量
デジエ製品単体		100MB + (デジエのdataディレクトリ + デジエのfileディレクトリ) + デジエのdataディレクトリの半分の容量
Office製品とデジエ製品		100MB + (デジエのdataディレクトリ + デジエのfileディレクトリ) + デジエのdataディレクトリの半分の容量 +
Office 8 plus デジエ		Officeのdata ディレクトリの半分の容量

引き継がれるデータについて

バージョンアップする前に登録済みのデータは、バージョンアップ後のOffice 10にすべて引き継がれます。
ただし、Office 9以前からOffice 10にバージョンアップする際は、デザインの種類によって、バージョンアップ前にユーザーが適用していたデザインが引き継がれない場合があります。
この場合、初期値の「青（標準）」デザインが自動的に適用されます。
必要に応じて、適用するデザインを選択しなおすことをユーザーに連絡してください。

バージョンアップ時の注意点

最新版にバージョンアップすると、元のバージョンには戻せません。
Office 9以前からOffice 10にバージョンアップする際は、次のページで注意事項を確認してください。

☐ 製品サイト: [バージョンアップに関する注意事項](#)

Office 10のライセンスキーの準備

次のどちらかの製品からOffice 10にバージョンアップする場合は、Office 10のライセンスキーが必要です。

- デジエ製品
- Office 9以前のOffice製品

ライセンスキーは、バージョンアップライセンスの発注、または、無償バージョンアップの申し込みをすると取得できます。
ライセンスキー発行は時間が掛かる場合があります。
バージョンアップの作業をする前に、お客様の利用状況に合わせて、必要な申し込みをしてください。

詳細は次のページを参照してください。

☐ 製品サイト: [旧バージョンを利用中の方](#)

☐ よくあるご質問: [サービスライセンス契約中ですが、無償バージョンアップは申し込みが必要ですか？](#)

お使いのOffice 10を最新版にする

お使いのOffice 10を最新版にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Linux環境: Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子: cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

 バージョンアップの前に確認すること

2. お使いのOffice 10で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ
- データディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄、「Dir」欄、および「UserDir」欄で確認できます。

DocumentRoot	/usr/local/apache2/htdocs ドキュメントルートディレクトリ	Web サーバーのドキュメント ルート
UserDir	/var/local/cybozu/office/cbag/ データディレクトリ	サーバーマシン上でのデータ ディレクトリの絶対パス
Dir	/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ CGIディレクトリ インストール識別子 インストールディレクトリ	製品を実行する際のサーバー マシン上でのディレクトリの 絶対パス

「実行環境の診断」画面の詳細は、次のページを確認してください。

バージョン	マニュアル	表記例
Office 10	 サーバー環境の確認	WebサーバーにApacheを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGI ディレクトリ /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ ● ドキュメントルートディレクトリ /usr/local/apache2/htdocs ● データディレクトリ /var/local/cybozu/office/cbag/

3. スケジューリングサービスを停止します。

手順16で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

スケジューリングサービスの停止

4. Office 10にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice 10にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice 10にアクセスできなくなります。

メンテナンス時間の設定

5. バージョンアップ前のOffice 10のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
	● (データディレクトリ)/cb5/data

Office 10	● (データディレクトリ)/cb5/file ● (データディレクトリ)/cb5/log ● (データディレクトリ)/cb5/module
-----------	---

6. 最新のインストーラーを入手します。

 製品サイト: [ダウンロード](#)

7. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。
“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

8. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

9. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

10. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :

11. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。
試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

12. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

 [インストール識別子とは](#)

```
===== インストール識別子の設定=====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。
Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:
```

13. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択=====
この製品(cbag)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: インストールを中止する
[1] / [2] :
```

14. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

 [Webサーバーの実行ユーザーとは\(Linux環境のみ\)](#)

```
===== Web サーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

15. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。

```
===== インストールの設定の確認=====
インストールの設定を確認してください。

インストール識別子:                cbag
CGIディレクトリ:                  /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:              /var/local/cybozu/office/cbag/
ドキュメントルートディレクトリ:  /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:      apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:  /var/local/cybozu/office/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ):
```

16. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

17. メンテナンス時間を解除します。

(データディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[📁 メンテナンス時間の解除](#)

18. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例:

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.cgi?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

19. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

20. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[📁 「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

サイボウズ AG～Office 9をOffice 10にする

サイボウズ AG、Office 6、Office 7、Office 8、Office 9を、Office 10にバージョンアップします。

次の場合を例に説明します。

- Linux環境: Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子: cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのサイボウズ Officeで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGI ディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/usr/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
	CGIディレクトリ	インストール識別子
	インストールディレクトリ	

バージョン	マニュアル	表記例
サイボウズAG	サイボウズAGの実行環境の診断	Web サーバーにApache を利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/ ● ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs
Office 6	サイボウズ(R) Office の実行環境の診断	
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	
Office 9	製品の実行環境を確認する	

3. スケジューリングサービスを停止します。

サイボウズ AGまたはOffice 6をお使いの場合、この操作は不要です。手順4に進みます。

手順17で作業が完了すると、スケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスの停止](#)

4. サイボウズ Officeにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがサイボウズ Officeにアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがサイボウズ Officeにアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
サイボウズAG	メンテナンス時間の設定
Office 6	メンテナンス時間の設定
Office 7	メンテナンス時間を設定する
Office 8	メンテナンス時間を設定する
Office 9	メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のサイボウズ Officeのデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	● (インストールディレクトリ)/cb5/data
Office 7	● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/log
Office 9	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log ● (インストールディレクトリ)/cb5/module

6. 最新のインストーラーを入手します。

製品サイト: [ダウンロード](#)

7. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。
“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

8. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

9. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

10. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

```
この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N]:
```

11. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。
試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

12. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

インストール識別子とは

```
===== インストール識別子の設定 =====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。
Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:
```

13. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択 =====
この製品(cbag)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: アンインストールする
3: インストールを中止する
[1] / [2] / [3]:
```



- Office 9をOffice 10にする場合：
手順15に進みます。
- サイボウズ AGやOffice 6～Office 8をOffice 10にする場合：
手順14に進みます。

14. 「N」を入力し、Enterキーを押します。

```
===== デデエのデータ取り込み =====
サイボウズ(R) デデエのデータを取り込みますか？
データの取り込みには、時間がかかる場合があります。
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

15. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

[Webサーバーの実行ユーザーとは\(Linux環境のみ\)](#)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定 =====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

16. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認 =====
インストール識別子:                                cbag
CGIディレクトリ:                                   /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:                                /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:                    /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:                         apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル:     /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:                    /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ) :
```

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

17. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認 =====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

18. メンテナンス時間を解除します。

メンテナンス時間内の場合、エラーが表示されます。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

19. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.cgi?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

20. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

21. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

 [試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

 [Office 10のライセンスキーの準備](#)

 [ライセンスの登録](#)

22. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

Office 4以前をOffice 10にする

Office 4以前の製品をOffice 10にバージョンアップするには、お使いの環境を一度Office 6にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップする必要があります。

次のステップで作業します。

Step1

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です

 [Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step2

Office 4以前の製品を、Office 6にバージョンアップします。

 Office 6: [サイボウズ Office 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step3

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

 [サイボウズ AG～Office9をOffice 10にする](#)

Step4

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office製品+リモートサービス」の場合](#)

デヂエ製品をOffice 10にする

単体で運用しているデヂエ製品をOffice 10にバージョンアップします。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- デヂエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象:
 - Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.cgi」がリンク切れになる。
 - カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法:
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

次の場合を例に説明します。

- デヂエ 8(バージョン 8.0.7)からバージョンアップする。
- Linux環境: Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子: cbdb

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのデヂエ製品で次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/usr/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
	CGIディレクトリ	インストール識別子
	インストールディレクトリ	

バージョン	マニュアル	表記例
DBメーカー	実行環境の診断	WebサーバーにApacheを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbdb ● CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb/ ● ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs
デヂエ 3	システム実行環境の診断	
デヂエ 4	システムの実行環境の診断	
デヂエ 5	システムの実行環境の診断	
デヂエ 6	システムの実行環境の診断	
デヂエ 8	システムの実行環境を確認する	

3. お使いのデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。
「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
DB メーカー	メンテナンス時間の設定は、デヂエ 4以降に搭載された機能です。

デヂエ 3	デヂエ 3以前からバージョンアップする場合は、ユーザーがデヂエにアクセスできない状態にし、手順4に進みます。
デヂエ 4	☐ メンテナンス時間の設定
デヂエ 5	☐ メンテナンス時間の設定
デヂエ 6	☐ メンテナンス時間の設定
デヂエ 8	☐ メンテナンス時間を設定する

4. バージョンアップ前のデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず必要な作業です。

次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
DBメーカー	
デヂエ 3	● (インストールディレクトリ)/data ● (インストールディレクトリ)/file
デヂエ 4	
デヂエ 5	
デヂエ 6	
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

5. 最新のインストーラーを入手します。

[☐ 製品サイト:ダウンロード](#)

6. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

7. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

8. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

9. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

```
この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N]:
```

10. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

11. バージョンアップするデヂエ製品のインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

[☐ インストール識別子とは](#)

```
===== インストール識別子の設定 =====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbdb

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。

Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:cbdb
```

12. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択=====
この製品(cbdb)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: インストールを中止する
[1] / [2]:
```

13. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

 Webサーバーの実行ユーザーとは(Linux環境のみ)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せず[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

14. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認=====
インストール識別子:                                cbdb
CGIディレクトリ:                                   /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:                               /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb
ドキュメントルートディレクトリ:                   /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:                         apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル:     /etc/rc.d/init.d/ofss_cbdb
アンインストールの実行ファイル:                   /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbdb

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ):
```

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

15. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

16. Webブラウザを起動し、Office 10Iにアクセスします。

バージョンアップ前のアクセスURLから、次の赤字部分が変わります。
アクセスURLの例:

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ ag.cgi ?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbdb/ag.cgi? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbdb」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbdb/ag.cgi?

17. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#) をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックしたあと、Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

18. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

19. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[📄 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります

[📄 Office 10のライセンスキーの準備](#)

[📄 ライセンスの登録](#)

20. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[📄 「デデエ製品+リモートサービス」の場合](#)

Office 8 plus デヂエをOffice 10にする

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** に取り込まれます。



- Office 8 plus デヂエからOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。

- 現象:

- Webブラウザのブックマーク、リンク集、掲示板などに登録していた「db.cgi」がリンク切れになる。
- カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
- CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。

- 回避方法:

上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。

[よくあるご質問](#)

次の場合を例に説明します。

- Linux環境: Red Hat Enterprise Linux 5
- インストール識別子: cbag

1. バージョンアップする環境を確認します。

[バージョンアップの前に確認すること](#)

2. お使いのOffice 8 plus デヂエで次の情報を確認します。

- インストール識別子
- CGIディレクトリ
- インストールディレクトリ
- ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office 8の「実行環境の診断」画面の例:

ドキュメントルートディレクトリ		
DocumentRoot	/user/local/apache2/htdocs	Webサーバーのドキュメントルート
Dir	/user/local/apache2/cgi-bin/cbag/	製品を実行する際のサーバーマシン上でのディレクトリの絶対パス
CGIディレクトリ		
インストール識別子		
インストールディレクトリ		

バージョン	マニュアル	表記例
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	WebサーバーにApacheを利用している場合の例: ● インストール識別子: cbag ● CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/ ● インストールディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag ● ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs
デヂエ	システムの実行環境を確認する	

3. Office 8のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエではこの操作は不要です。

手順16で作業が完了すると、Officeのスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[スケジューリングサービスの停止](#)

4. Office 8 plus デヂエにメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- 最初に「plus デヂエ」にメンテナンス時間を設定してから、Office 8にメンテナンス時間を設定します。
- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
Office 8	メンテナンス時間を設定する
デヂエ 8	メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前の製品のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
Office 8	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file

6. 最新のインストーラーを入手します。

[製品サイト:ダウンロード](#)

7. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

8. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

9. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

10. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

```
この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N]:
```

11. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。

試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

12. バージョンアップするサイボウズ Officeのインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

[インストール識別子とは](#)

```
===== インストール識別子の設定 =====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。

Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:
```

13. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択=====
この製品(cbag)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: アンインストールする
3: インストールを中止する
[1] / [2] / [3]:
```

14. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。

Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

[Webサーバーの実行ユーザーとは\(Linux環境のみ\)](#)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定=====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

15. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認=====
インストール識別子:                                cbag
CGIディレクトリ:                                /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ:                            /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ:                /usr/local/apache2/htdocs
WEBサーバーの実行ユーザー:                    apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss_cbag
アンインストールの実行ファイル:                /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ):
```

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

16. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

```
===== バージョンアップの終了の確認=====
バージョンアップが正常に終了しました。
```

バージョンアップ後の作業に進みます。

17. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

18. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

アクセスURLの例:

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.cgi?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

19. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#) をクリックします。



ホームへ をクリックしたあと、Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

20. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

21. システムメールアカウントを設定します

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デジエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のOffice 8側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[☐ システムメールアカウント/メール通知について](#)

22. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。

メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[☐ 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[☐ Office 10のライセンスキーの準備](#)

[☐ ライセンスの登録](#)

23. リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[☐ 「Office 8 plus デジエ+リモートサービス」の場合](#)

「デヂエ製品 + Office 9」をOffice 10にする

Office 9とデヂエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ・ カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 9のみOffice 10にバージョンアップしてください。

ただし、Office 9だけをOffice 10にバージョンアップするだけでは、Office側にデヂエ製品のデータは取り込めません。

デヂエ製品のデータをOffice 10の「カスタムアプリ」に取り込む場合、下記のStep6の操作を行ってください。

Step1

Office 9とデヂエ製品でユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

ユーザー情報連携は、デヂエ製品で確認できます。

[デヂエ 8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

Step2

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step3

お使いのデヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[デヂエ 8: バージョンアップする](#)



- Office 9とデヂエ製品でユーザー情報連携を行っている場合：
必ずデヂエ製品を最新版にバージョンアップしてください。
デヂエ製品が古いバージョンのままOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携が設定できなくなります。

Step4

Office 9をOffice 10にバージョンアップします。

[サイボウズ AGやOffice 6～Office 9をOffice 10にする](#)

Step5

デヂエとOffice 10で動作確認をします。



- バージョンアップ前のOffice 9とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合：
バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
Office 10とユーザー情報を連携してください。

Step6

Office 10の「カスタムアプリ」にデヂエ製品のデータを取り込む場合は、次の操作を行います。

デヂエ製品の各ライブラリのデータをDBMファイルに書き出します。
Office 10で手順1のDBMファイルを読み込みます。

詳細は次のページを参照してください。

[よくあるご質問](#)

バージョンアップ後も、Office 10とデヂエ製品を併用する場合は、Step6の操作は不要です。Step7に進みます。

Step7

ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください

 [試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、必ずOffice 10用のライセンスを登録してください。

Step2で準備したライセンスを登録する手順は、次のページを参照してください。

 [ライセンスの登録](#)

Step8

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office 9+デデエ製品+リモートサービス」の場合](#)

「デヂエ製品＋サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする

サイボウズ AGやOffice 6～Office 8とデヂエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデヂエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象:
 - ・ カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法:
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office製品のみOffice 10にバージョンアップしてください。

Office AG、Office 6、Office 7、Office 8 をOffice 10にすると、バージョンアップする過程で、デヂエ製品のデータは自動的にOffice 10に取り込まれます。

デヂエのライブラリやレコードデータは、バージョンアップ後のOffice 10の  **カスタムアプリ** で確認できます。

各製品のサーバーの確認

Office 製品とデヂエ製品が、同じサーバー上で運用されているかどうかを確認します。

- 同じサーバー上で運用している場合:
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込んで、Office 10にバージョンアップできます。
引き続き、「ユーザー情報連携の確認」や「バージョンアップ前の準備」の説明を確認してください。
- 異なるサーバー上で運用している場合:
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込みません。
デヂエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デヂエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。
[デヂエ 8: サーバー／ドライブを移行する](#)

ユーザー情報連携の確認

バージョンアップの前に、お使いのOffice製品とデヂエ製品がユーザー情報連携しているかどうかを確認します。

デヂエのバージョン番号と、ユーザー情報連携の有無によって、注意する内容が異なります。

ユーザー情報連携は、デヂエ製品で確認できます。

[デヂエ 8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

■ ユーザー情報を連携していない場合

デヂエ製品のバージョンに関わらず、デヂエ製品のユーザー情報は、Office 10に引き継がれません。

Office 10にバージョンアップする前に、Office製品とデヂエ製品で、次の情報を同一にしてからバージョンアップすると、デヂエ製品のアクセス権などの設定を引き継げます。

- ユーザーのログイン名
- Office製品のグループ名(現:組織名)とデヂエ製品のグループ名

ユーザー情報を連携せずに、バージョンアップする場合は、次のページを確認してから操作してください。

[よくあるご質問](#)

■ ユーザー情報を連携している場合

ユーザー情報連携している、かつ、Office 10へバージョンアップした後も、デヂエ製品の利用を継続する場合の注意点は、次のとおりです。

バージョン	説明
古いデヂエ (バージョン 8.0.7以前)	デヂエが古いバージョンのまま、連携先のOffice 製品をOffice 10にバージョンアップすると、ユーザー情報連携を引き継げません。 デヂエを最新版にバージョンアップしてから、Office 10にバージョンアップしてください。
最新版のデヂエ (バージョン 8.1.0)	連携先の Office製品をOffice 10にバージョンアップした後も、ユーザー情報連携が引き継がれます。 ただし、連携先のOffice製品のインストールディレクトリのパスに全角が含まれていると、ユーザー情報を連携できません。 Office製品のインストールディレクトリを確認してから、Office 10にバージョンアップしてください。 サイボウズ AG:サイボウズ AGの実行環境の診断 Office 6:サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断 Office 7:「Office 7」の実行環境を確認する Office 8:「Office 8」の実行環境を確認する

バージョンアップする

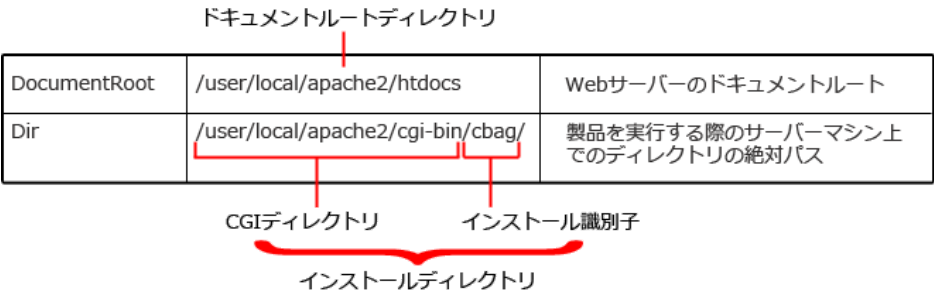
次の場合を例に説明します。

- Linux環境:
 - Red Hat Enterprise Linux 5
- Office製品:
 - バージョン:8.1.6
 - インストール識別子:cbag
- デヂエ製品:
 - バージョン:8.1.0
 - インストール識別子:cbdb

- バージョンアップする環境を確認します。
[バージョンアップの前に確認すること](#)
- お使いのOffice製品とデヂエ製品で次の情報を確認します。
 - インストール識別子
 - CGIディレクトリ
 - インストールディレクトリ
 - ドキュメントルートディレクトリ

「実行環境の診断」画面の「DocumentRoot」欄と「Dir」欄で確認できます。

Office製品の「実行環境の診断」画面の例:



バージョン	マニュアル	表記例
デヂエ 8	システムの実行環境を確認する	WebサーバーにApacheを利用している場合の例: - インストール識別子: - Officeの場合: cbag - デヂエの場合: cbdb - CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/ - インストールディレクトリ: - Officeの場合: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag - デヂエの場合: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb - ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs
サイボウズ AG	サイボウズ AGの実行環境の診断	
Office 6	サイボウズ(R) Officeの実行環境の診断	
Office 7	「Office 7」の実行環境を確認する	
Office 8	「Office 8」の実行環境を確認する	

3. Office製品のスケジューリングサービスを停止します。

デヂエ製品ではこの操作は不要です。

お使いのOffice製品が、サイボウズ AGまたはOffice 6の場合も、この操作は不要です。手順4に進みます
手順19で作業が完了すると、Office製品のスケジューリングサービスは自動的に起動されます。

[☐ スケジューリングサービスの停止](#)

4. Office製品とデヂエ製品にメンテナンス時間を設定し、ユーザーのアクセスを一時的に中止します。



- バックアップやバージョンアップの作業は、ユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスしていない状態で行う必要があります。「メンテナンス時間」を設定することで、一時的にすべてのユーザーがOffice製品やデヂエ製品にアクセスできなくなります。

バージョン	マニュアル
デヂエ 8	☐ メンテナンス時間を設定する
サイボウズ AG	☐ メンテナンス時間の設定
Office 6	☐ メンテナンス時間の設定
Office 7	☐ メンテナンス時間を設定する
Office 8	☐ メンテナンス時間を設定する

5. バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品のデータをバックアップします。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

製品	バックアップの対象となるデータ
デヂエ 8	● (インストールディレクトリ)/dze/data ● (インストールディレクトリ)/dze/file
サイボウズ AG	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file
Office 6	● (インストールディレクトリ)/cb5/data ● (インストールディレクトリ)/cb5/file ● (インストールディレクトリ)/cb5/log
Office 7	
Office 8	

6. デヂエ製品を最新版にバージョンアップします。

[☐ デヂエ 8: バージョンアップする](#)



- Office 10にバージョンアップした後もデヂエ製品を利用する場合のみ、デヂエ製品を最新版にバージョンアップする必要があります。

7. Office 10の最新のインストーラーを入手します。

[☐ 製品サイト: ダウンロード](#)

8. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを利用し、root権限でログインします。

“-”は必ず付けてください。

```
su -
```

9. サーバマシンにダウンロードした「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」を任意のディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。

例: /tmpにインストーラーを保存する場合

```
cp cbof-10.0.0-linux-k0.bin /tmp
cd /tmp
```

10. インストーラー「cbof-10.0.0-linux-k0.bin」をshコマンドで起動します。

```
sh cbof-10.0.0-linux-k0.bin
```

11. 日本語が表示されたら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

日本語が表示されない場合は、英語表示モードでインストールします。「N」を入力してからEnterキーを押します。

この日本語が正しく表示されている場合はYを入力してください。
If you cannot read the above Japanese text, type 'N'.
[Y] / [N] :

12. 試用許諾契約書を確認したら、「Y」を入力し、Enterキーを押します。

表示されている試用許諾契約書は、EnterキーまたはSpaceキーを押して最後まで確認してください。
試用許諾契約書に同意しない場合は「N」を入力してからEnterキーを押し、インストールを中止します。

13. バージョンアップするOffice製品のインストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

[インストール識別子とは](#)

```
===== インストール識別子の設定 =====
サイボウズ製品がすでにインストールされています。
すでにインストールされている製品のインストール識別子は次のとおりです。
cbdb
cbag

バージョンアップまたはアンインストールする場合は、すでにインストールされている製品と同じインストール識別子を設定してください。
Cybozu(R) Office 10を新規にインストールする場合、使用していないインストール識別子を設定してください。

なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「cbag」が設定されます。
[cbag]:
```

14. 「1」を選択し、Enterキーを押します。

```
===== 操作の選択 =====
この製品(cbag)に対する操作を選択してください。
1: バージョンアップする
2: アンインストールする
3: インストールを中止する
[1] / [2] / [3]:
```

15. 「Y」を入力し、Enterキーを押します。

```
===== デヂエのデータ取り込み =====
サイボウズ(R) デヂエのデータを取り込みますか？
データの取り込みには、時間がかかる場合があります。
[Y](はい) / [N](いいえ):
```

16. データを取り込むデヂエ製品のインストールディレクトリを入力し、Enterキーを押します。

```
===== デヂエのインストールディレクトリの設定 =====
データを取り込むサイボウズデヂエ のインストールディレクトリを設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「/usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb」が設定されます。

インストールディレクトリの確認方法
サイボウズデヂエのシステム設定の「実行環境の診断」画面のDir 欄で確認できます。
例: デヂエの実行環境が、「/var/www/cgi-bin/cbdb/」の場合
インストールディレクトリは、「/var/www/cgi-bin/cbdb」になります。

[/usr/local/apache2/cgi-bin/cbdb]:
```

17. Webサーバーの実行ユーザー名を確認し、Enterキーを押します。

通常は、Webサーバーの実行ユーザー名には「apache」を設定するため、何も入力せずEnterキーを押します。
Webサーバーの実行ユーザー名を変更する場合は、実行ユーザー名を入力しEnterキーを押します。

[Webサーバーの実行ユーザーとは\(Linux環境のみ\)](#)

```
===== Webサーバーの実行ユーザー名の設定 =====
Webサーバーの実行ユーザー名を設定してください。
なにも入力せずに[Enter]キーを押すと、「apache」が設定されます。
通常は変更する必要はありません。
[apache]:
```

18. バージョンアップの設定を確認し、問題がなければ「Y」を入力してEnterキーを押します。インストールの設定を確認してください。

```
===== インストールの設定の確認 =====
インストール識別子: cbag
CGIディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin
データディレクトリ: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag
ドキュメントルートディレクトリ: /usr/local/apache2/htdocs

WEBサーバーの実行ユーザー: apache
スケジューリングサービスの起動/停止ファイル: /etc/rc.d/init.d/ofss.cbag
アンインストールの実行ファイル: /usr/local/apache2/cgi-bin/cbag/uninstall_cbag
```

この設定でインストールします。よろしいですか？
[Y](はい) / [N](いいえ) :

データコンバートのあと、バージョンアップが始まります。

19. バージョンアップ終了のメッセージを確認します。

===== バージョンアップの終了の確認 =====
バージョンアップが正常に終了しました。

バージョンアップ後の作業に進みます。

20. メンテナンス時間を解除します。

(インストールディレクトリ)/cb5/data/配下にあるmaintファイルを削除して、メンテナンス時間を解除します。

[メンテナンス時間の解除](#)

21. Webブラウザを起動し、Office 10にアクセスします。

アクセスURLの例：

Web サーバー	アクセスURL	例
Apache	http://(サーバーのホスト名またはIPアドレス)/cgi-bin/(インストール識別子)/ag.cgi?	● サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://192.168.1.1/cgi-bin/cbag/ag.cgi? ● ホスト名が「test.co.jp」、インストール識別子が「cbag」の場合 http://test.co.jp/cgi-bin/cbag/ag.cgi?

22. コンバート結果を確認し、[ホームへ](#) をクリックします。



[ホームへ](#) をクリックし、Office 10のログイン画面が表示されれば、バージョンアップは正常に終了しています。

23. Office 10にログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- ログイン画面下部のバージョン番号が、最新のバージョンになっている。

24. システムメールアカウントを設定します。

次のすべての条件に該当する場合に設定が必要です。

- デヂエ側でメール通知を設定しており、バージョンアップ後の「カスタムアプリ」でも引き続きメール通知を利用したい。
- バージョンアップ前のサイボウズ Office側で、システムメールアカウントを設定していない。

設定の詳細は、次のページを参照してください。

[システムメールアカウント/メール通知について](#)

25. ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

[📄 試用期間の終了日が近づくと](#)

Office 10の環境では、Office 10のライセンスを登録する必要があります。

[📄 Office 10のライセンスキーの準備](#)

[📄 ライセンスの登録](#)



- バージョンアップ前のOffice製品とデヂエ製品でユーザー情報を連携していた場合：
バージョンアップした後に、デヂエ製品にアクセスすると、ユーザー情報連携の再設定画面が表示されます。
バージョンアップした後も継続してデヂエ製品を使用する場合は、Office 10とユーザー情報を連携してください。
- [📄 デヂエ8: サイボウズ製品とユーザー情報を連携する](#)

26. **リモートサービスをお使いの場合** リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

[📄 「Office 8以前+デヂエ製品+リモートサービス」の場合](#)

「デジエ製品 + Office 4以前」をOffice 10にする

Office 4以前のOffice製品とデジエ製品を併用している環境を、Office 10にバージョンアップする手順を説明します。



- Office製品とデジエ製品からOffice 10へバージョンアップした場合、次のような問題が発生する場合があります。
 - 現象：
 - ・ カスタムアプリ内で「db.cgi?page=xxx」と入力してもリンクとして利用できない。
 - ・ CSV入出力機能を使用したバッチスクリプトが使えなくなる。
 - 回避方法：
上記の問題を解決するためのツールを下記のページからダウンロードしてください。
[よくあるご質問](#)

Office 10にバージョンアップするには、一度Office 4以前のOffice製品をOffice 6にバージョンアップする必要があります。
デジエ製品のデータは、Office 6から再度バージョンアップする際に、自動的にOffice 10に取り込まれます。

次のステップで作業します。

Step1

Office 4以前のOffice製品とデジエ製品が、同じサーバー上で運用されていることを確認します。



- 異なるサーバーでOffice製品とデジエ製品を運用している場合、Step5でデジエ製品のデータをOffice側に取り込みません。
デジエ製品のデータをOffice側に取り込む場合は、デジエ製品をOffice製品と同じサーバーに移行してからバージョンアップしてください。

Step2

ユーザー情報を連携しているかどうかを確認します。

- 連携している場合：
Step3に進みます。
- 連携していない場合：
Office製品とデジエ製品の各ユーザーのログイン名とグループ名を一致させてください。



- ユーザー情報を連携していない場合、ユーザーのログイン名とグループ名をOffice製品と一致させないままバージョンアップすると、デジエ製品のユーザー情報が引き継がれず、アクセス権の設定などが無効になります。

Step3

バージョンアップする前に、Office 10のライセンスキーの準備が必要です。

[Office 10のライセンスキーの準備](#)

Step4

デジエ製品を、最新版にバージョンアップします。

[デジエ 8: バージョンアップする](#)



- 次のすべての条件に該当する場合のみ、Step4を行います。条件に該当しない場合は、Step5に進みます。
 - Office製品とデジエ製品でユーザー情報を連携している
 - Office 10へのバージョンアップ後も「デジエ」を引き続き利用する

Step5

Office 4以前のOffice製品を、Office 6にバージョンアップします。

[Office 6: サイボウズOffice 4以前の製品からのバージョンアップ](#)

Step6

Office 6をOffice 10にバージョンアップします。

- バージョンアップ中にデヂエ製品のデータをOffice側に取り込むかどうかを選択してください。
- Step4を行った場合は、デヂエ製品にアクセスし、連携先の製品をOffice 10に変更してください。

 [「デヂエ製品+サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする](#)

Step7

ライセンスを登録します。

ライセンスを登録せずに、Office 10の利用を継続すると、操作画面にメッセージが表示されます。
メッセージの詳細は、次のページを参照してください。

 [試用期間の終了日が近づく](#)

Office 10の環境では、必ずOffice 10用のライセンスを登録してください。

Step3で準備したライセンスキーを登録する手順は、次のページを参照してください。

 [ライセンスの登録](#)

Step8

リモートサービスをお使いの場合 リモートサービスマネージャーに登録している製品情報を更新します。

詳細は、次のページの手順2以降を参照してください。

 [「Office 8以前+デヂエ製品+リモートサービス」の場合](#)

リモートサービスを使用している場合

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。ただし、リモートサービスマネージャーで、利用製品の更新が必要です。

Office 10をバージョンアップしたあと、リモートアクセスできない場合や、画像やアイコンが正しく表示されない場合は、リモートサービスマネージャーの設定を確認してください。

よくあるご質問:[「Office 9」からバージョンアップした後、「リモートサービス」はそのまま利用できますか？](#)

リモートサービス:[バージョンアップする\(Windows環境\)](#)

リモートサービス:[バージョンアップする\(Linux環境\)](#)

リモートサービス:[サイボウズ製品を更新する](#)

「Office製品＋リモートサービス」の場合

Office製品をリモートサービスで利用されている場合に、お使いのOffice製品をOffice 10にバージョンアップする手順を説明します。

1. Office製品をOffice 10にバージョンアップします。

Windows版	お使いのOffice 10を最新版にする Office 7～Office 9をOffice 10にする サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする Office 4以前をOffice 10にする
Linux版	お使いのOffice 10を最新版にする サイボウズ AG～Office 9をOffice 10にする Office 4以前をOffice 10にする

2. リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

- [リモートサービス:バージョンアップする\(Windows環境\)](#)
- [リモートサービス:バージョンアップする\(Linux環境\)](#)

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。
手順3に進みます。

3. リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新します。

- [リモートサービス:サイボウズ製品を更新する](#)

4. リモートサービス経由でOffice 10にアクセスし、操作に問題ないことを確認します。

「デヂエ製品＋リモートサービス」の場合

デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップすると、アクセスURLが変わります。

このためバージョンアップ後に、新たにOffice 10をリモートサービスの利用製品として登録する必要があります。

バージョンアップ後にリモートサービスを利用する場合は、Office 10用のURLを使用してください。

バージョンアップ前のデヂエ製品のURLは使用できません。

1. デヂエ製品をOffice 10にバージョンアップします。

Windows版	☐ デヂエ製品を Office 10にする
Linux版	☐ デヂエ製品を Office 10にする

2. リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

☐ リモートサービス: [バージョンアップする \(Windows環境\)](#)

☐ リモートサービス: [バージョンアップする \(Linux環境\)](#)

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。

手順3に進みます。

3. 手順1のOffice 10を、リモートサービスマネージャーに登録します。

☐ リモートサービス: [サイボウズ製品を追加する](#)

4. リモートサービス経由でOffice 10にアクセスし、操作に問題ないことを確認します。

5. リモートサービスの利用ユーザーに、新しいアクセスURLを連絡します。

「Office 8 plus デヂエ+リモートサービス」の場合

Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップすると、「plus デヂエ」のデータがOffice 10に取り込まれます。
このため、バージョンアップ後は、リモートサービスマネージャーで次の操作が必要です。

- 不要になったデヂエ製品の登録情報を削除する
- Office製品の登録情報を、Office 10の内容に更新する

1. Office 8 plus デヂエをOffice 10にバージョンアップします。

Windows版	 Office 8 plus デヂエをOffice 10にする
Linux版	 Office 8 plus デヂエをOffice 10にする

2. リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス: [バージョンアップする\(Windows環境\)](#)

 リモートサービス: [バージョンアップする\(Linux環境\)](#)

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。
手順3に進みます。

3. リモートサービスマネージャーに登録している、Office 8の情報をOffice 10に更新します。

 リモートサービス: [サイボウズ製品を更新する](#)

4. リモートサービスマネージャーから、デヂエ製品の登録情報を削除します。

 リモートサービス: [サイボウズ製品を削除する](#)

5. リモートサービス経由でOffice 10にアクセスし、操作に問題ないことを確認します。

6. リモートサービスの利用ユーザーに、Office 10のリモートアクセスURLだけを利用することを連絡します。

手順4で削除したデヂエのリモートアクセスURLは利用できません。

「Office 9 + デヂエ製品 + リモートサービス」の場合

Office 9とデヂエ製品の両方を、リモートサービスで利用されている場合のバージョンアップ手順を説明します。

1. Office 9とデヂエ製品をOffice 10にバージョンアップします。

Windows版	 「デヂエ製品 + Office 9」をOffice 10にする
Linux版	 「デヂエ製品 + Office 9」をOffice 10にする

2. リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

 リモートサービス: [バージョンアップする \(Windows環境\)](#)

 リモートサービス: [バージョンアップする \(Linux環境\)](#)

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。
手順3に進みます。

3. リモートサービスマネージャーの登録製品を最新版に更新します。

 リモートサービス: [サイボウズ製品を更新する](#)

- DBMファイルを使用して、Office 10にデヂエ製品のデータを取り込んでいる場合:

Office 9の情報	Office 10に更新します。
デヂエ製品の情報	Office 10に取り込まれているため、不要な登録情報です。 リモートサービスマネージャーから登録情報を削除してください。

- バージョンアップ後も、Office 10とデヂエ製品を併用する場合:

Office 9の情報	Office 10に更新します。
デヂエ製品の情報	最新版の情報に更新します。

4. リモートサービス経由でOffice 10にアクセスし、操作に問題ないことを確認します。

「Office 8以前＋デジエ製品＋リモートサービス」の場合

Office製品（Office 8以前）とデジエ製品の両方を、リモートサービスで利用されている場合に、お使いの製品をOffice 10にバージョンアップする手順を説明します。

1. お使いの製品をOffice 10にバージョンアップします。

デジエ製品のデータは Office 10に取り込まれます。

Windows版	「デジエ製品＋サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする 「デジエ製品＋Office 4以前」をOffice 10にする
Linux版	「デジエ製品＋サイボウズ AG～Office 8」をOffice 10にする 「デジエ製品＋Office 4以前」をOffice 10にする

2. リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

[リモートサービス：バージョンアップする（Windows環境）](#)

[リモートサービス：バージョンアップする（Linux環境）](#)

最新のリモートサービス 3を使用している場合は、リモートサービスをバージョンアップする必要はありません。
手順3に進みます。

3. リモートサービスマネージャーの登録製品を最新版に更新します。

[リモートサービス：サイボウズ製品を更新する](#)

- バージョンアップ前のOffice 製品とデジエ製品が、同じサーバー上にあった場合：
Office10に、デジエ製品のデータが取り込まれています。

Office製品の情報	Office 10に更新します。
デジエ製品の情報	Office 10に取り込まれているため、不要な登録情報です。 リモートサービスマネージャーから登録情報を削除してください。

- バージョンアップ前のOffice製品とデジエ製品が、異なるサーバー上にあった場合
バージョンアップ後も、Office 10とデジエ製品は別々に運用します。

Office製品の情報	Office 10に更新します。
デジエ製品の情報	最新版の情報に更新します。

4. リモートサービス経由でOffice 10にアクセスし、操作に問題ないことを確認します。

サーバーやドライブを移行する場合

お使いの環境をOffice 10にバージョンアップすると同時に、別のサーバーマシンやドライブに移行する場合の手順を説明します。

ここでの説明は、Office 9以前の製品をお使いのお客様が対象です。

Office 10をお使いで、サーバーやドライブの移行のみを実施する場合は、次のページを参照してください。

[!\[\]\(d74a9c3a76383f712cfbbcb3daba239d_img.jpg\) サーバーの移行\(移行元がOffice 10の場合\)](#)

[!\[\]\(ec74e4ff84a50c589ff2dba4622afd54_img.jpg\) ドライブの移行\(移行元がOffice 10の場合\)](#)

移行の前に確認すること



- 弊社では、移行に伴うデータの紛失やトラブルに対する保証はいたしかねます。ご了承ください。
- FTPを使用する場合は、バイナリモードでデータを転送します。
- 指定されたデータのみ移行してください。誤って不要なデータを移行すると、正常に利用できなくなる恐れがあります。
- お客様で編集したテンプレートのhtmlファイルは移行しないでください。移行元と移行先のサイボウズ Officeのバージョンが異なると、正常に動作しない恐れがあります。

ライセンスや製品の試用について

■ ライセンス

サーバーマシンやドライブを移行しても、新たにライセンスを購入する必要はありません。

移行するデータには、システム設定の情報やライセンスキーの情報が含まれています。このため、ライセンスキーを再度登録する必要はありません。

■ 製品の試用

サーバーマシンを移行する前に、移行先のサーバーマシンでサイボウズ Officeを試用できます。

この場合、移行元と移行先のサーバーマシンで、2つのサイボウズ Officeを利用できます。

ただし、2つのサイボウズ Officeで利用しているデータは、統合、同期、および連携はできません。

サーバーOSと移行データ

移行元製品のデータディレクトリを、移行先製品のデータディレクトリに配置すると、データを移行できます。

Windows環境からLinux環境への移行など、移行先と移行元のサーバーOSが異なる場合でも、コード変換など特別な作業は不要です。

データディレクトリが次の場合、移行するデータは次のとおりです。

- Windows版の例: C:\cybozu\office\cbag\
- Linux版の例: /var/local/cybozu/office/cbag/

	移行元でのコピー対象		移行先でのデータの配置
Windows環境 →Windows環境	C:\cybozu\office\cbag\cb5\data C:\cybozu\office\cbag\cb5/file	→	C:\cybozu\office\cbag\cb5/以下
Windows環境 →Linux環境	C:\cybozu\office\cbag\cb5/log C:\cybozu\office\cbag\cb5/module	→	/var/local/cybozu/office/cbag/cb5/以下
Linux環境 →Linux環境	/var/local/cybozu/office/cbag/cb5/data /var/local/cybozu/office/cbag/cb5/file	→	/var/local/cybozu/office/cbag/cb5/以下
Linux環境 →Windows環境	/var/local/cybozu/office/cbag/cb5/log /var/local/cybozu/office/cbag/cb5/module	→	C:\cybozu\office\cbag\cb5/以下

移行先にデータを上書きする場合

移行元でコピーしたデータディレクトリを移行先に配置する際に、移行先のデータを上書きする場合は、次の確認をしてください。

Windows環境

上書きコピーの作業によって、アクセス権が変更されることがあります。データファイルがアクセスできる状態であることを確認してください。

「エラー番号:401 データファイルを開けませんでした。」と表示される

Linux環境

上書きコピーの作業によりファイルの所有者(owner)が変更されることがあります。

ファイルの所有者(owner)が変更されると、データの登録や変更ができなくなります。

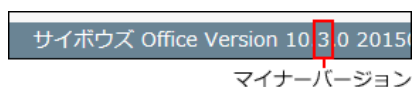
データを移行した後に、移行先サーバーマシンのファイルの所有者(owner)が、「Webサーバーを実行しているユーザーである」ことを確認してください。

移行元と移行先の製品バージョンの確認

移行作業を実行する前に、製品のマイナーバージョンを確認します。

移行元と移行先のマイナーバージョンが同じ場合のみ、サーバーまたはドライブの移行が可能です。

お使いの製品のマイナーバージョンは、画面のフッターで確認できます。



移行可能なバージョン

サーバーまたはドライブで運用している製品のバージョン			移行の可否
移行元	移行先		
10.1.0	10.1.2	→ ○	移行元と移行先の製品のマイナーバージョンが同じであるため移行できます。
10.3.0	10.3.0	→	
10.2.0	10.3.0	→ ×	移行元と移行先の製品のマイナーバージョンが異なるため移行できません。
9.2.1	10.3.0	→ ×	Office 9以前のバージョンのデータを、直接Office 10に移行できません。移行元の製品をOffice 10にバージョンアップしてから移行してください。
8.1.4	10.3.0	→	

移行後のアクセスURLの確認

サーバーマシンやドライブを移行する際に、サーバーOSの種類やホスト名などが変わる場合は、移行後の製品のアクセスURLが変わります。

サーバーマシンのホスト名やIPアドレスが変わる場合

ホスト名が「aaaaa」から「bbbb」に変わる場合の例	
移行前	http://aaaaa/scripts/cbag/ag.exe
移行後	http://bbbb/scripts/cbag/ag.exe

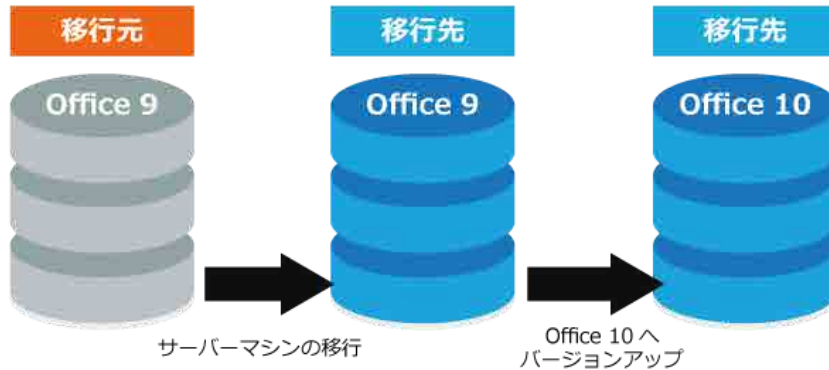
サーバーOSがWindowsからLinuxに変わる場合

ホスト名が「aaaaa」、WebサーバーにApacheを使用している場合の例	
移行前 (Windows)	http://aaaaa/cgi-bin/cbag/ag.exe
移行後 (Linux)	http://aaaaa/cgi-bin/cbag/ag.cgi

サーバーの移行(移行元がOffice 9以前の場合)

移行元がOffice 9以前であり、サーバー移行と一緒にOffice 10へのバージョンアップを行う場合の手順を説明します。

■ サーバー移行とバージョンアップの手順イメージ(Office 9の場合)



- 移行先に製品をインストールできない場合
移行元と同じバージョンの製品を、移行先のサーバーマシンにインストールできない場合は、次の手順での移行を検討してください。

1. 移行元のサイボウズ OfficeをOffice 10にバージョンアップします。
2. 手順1のOffice 10を、移行先のサーバーマシンに移行します。

Step1

移行前の注意事項を確認します。

[☐ 移行の前に確認すること](#)

Step2

移行元での作業 移行元の製品データを、移行先のサーバーマシンに移行します。

移行元でお使いの製品バージョンにあった手順で移行してください。

移行元	参照するマニュアル
Office 9	☐ サーバーを移行する
Office 8	☐ サーバーを移行する
Office 7	☐ サーバーを移行する
Office 6	☐ サーバーの移行
Office AG	☐ サーバー移行
Office 4	☐ 移行について

次のパターンに該当し、デジエ製品(デジエ 6やデジエ 8)のサーバー移行とOffice 10へのバージョンアップをされる場合は、デジエ製品のサーバー移行も必要です。

移行元	参照するマニュアル
デジエ製品のみ	☐ サーバー/ドライブを移行する
デジエ製品 + Office製品	● Office製品: お使いのバージョンにあった、上記のマニュアルを参照してください。 ● デジエ製品: ☐ サーバー/ドライブを移行する

ユーザー情報連携を設定している場合は、次のページを参照してください。

[ユーザー情報連携の再設定について](#)

Step3

移行先での作業

サーバー移行が完了したら、移行先の製品をOffice 10にバージョンアップします。

[バージョンアップ](#)

ドライブの移行(移行元がOffice 9以前の場合)

移行元がOffice 9以前であり、ドライブの移行と一緒にOffice 10へのバージョンアップを検討されている場合は、弊社のテクニカルサポートに問い合わせてください。

[☐ テクニカルサポートへの問い合わせ](#)